

官吏恩給條例

民國二十八年三月四日

- 第一條 凡中華民國維新政府ニ服務スル一般文官及司法官ニ對スル恩給ニ關シテハ官吏特種恩給暫行條例其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外本條例ニ依リ之ヲ辦理ス
- 第二條 恩給ハ之ヲ左ノ四種ニ分ツ
 - 一 終身恩給
 - 二 一時賜金
 - 三 遺族扶助料
 - 四 遺族一時賜金
- 第三條 官吏ニシテ左ノ事情ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ期ヲ分チテ退職時ノ俸給ノ五分ノ一ニ相當スル終身恩給ヲ支給ス
 - 一 公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ依テ身體衰弱シ廢殘者ト爲リ又ハ心神喪失シテ職務ニ耐ヘザルニ到リタル者
- 第四條 官吏ニシテ左ノ事情ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ期ヲ分チテ退職時ノ俸給ノ五分ノ一ニ相當スル一時賜金ヲ支給ス
 - 一 公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ依テ身體衰弱シ廢殘者ト爲リ又ハ心神喪失シテ職務ニ耐ヘザルニ到リタル者
- 第五條 左ノ事情ノ一ニ該當スル者ハ其ノ恩給ノ受領權ヲ喪失ス
 - 一 終身公權ヲ剝奪セラレタル者
 - 二 中華民國ノ國籍ヲ喪失シタル者
- 第六條 左ノ事情ノ一ニ該當スル者ハ其ノ終身恩給ヲ停止ス
 - 一 公權ヲ剝奪セラレ未ダ復權セザル者
- 第七條 官吏ニシテ公務ノ爲傷殘ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ十年以上ニシテ身體衰弱シ又ハ廢殘者ト爲リ職務ニ耐ヘザルニ到リタル者
- 第八條 終身恩給ハ當該官吏退職ノ月ノ翌月ヨリ起算シ死亡ノ月迄之ヲ支給ス
- 第九條 左ノ事情ノ一ニ該當スル者ハ其ノ恩給ノ受領權ヲ喪失ス
 - 一 終身公權ヲ剝奪セラレタル者
 - 二 中華民國ノ國籍ヲ喪失シタル者
- 第十條 本條例第三條第一號及第二號ノ規定ニ依リ終身恩給ヲ受ケ爾後再び官吏ニ任官シタル者
- 第十一條 官吏ニシテ公務ノ爲傷殘ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ十年以上ニシテ身體衰弱シ又ハ廢殘者ト爲リ職務ニ耐ヘザルニ到リタル者

- 第十二條 在職中ノ廢殘未ダ心神喪失ノ程度ニ達セザル者ハ其ノ退職前二ヶ月間ノ俸給額ノ限度内ニ於テ一時賜金ヲ給與ス
- 第十三條 官吏ニシテ前條ノ賜金ヲ受ケタル後其ノ傷疾又ハ疾病ノ程度加重シ本條例第三條第一號ノ終身恩給ヲ受ケルニ至リタル者ハ已ニ給與シタル賜金ニ相當スル金額ヲ其ノ恩給額ノ内ヨリ控除ス
- 第十四條 官吏ニシテ左ノ事情ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ最終ノ在職時ニ於ケル俸給ノ十分ノ一ヲ基準トシテ遺族扶助料ヲ給與スルコトヲ得
 - 一 公務ノ爲死亡シタル者
 - 二 在職十年以上ニシテ死亡シタル者
- 第十五條 本條例第三條ノ規定ニ依リ終身恩給ヲ受ケ五年未滿ニシテ死亡シタル者
- 第十六條 死亡者遺族ノ扶助料受領ノ順位ハ左ニ掲グル所ニ依ル
 - 一 死亡者ニ配偶者有ルトキハ其ノ配偶者但シ死亡者ノ夫(配偶者夫ナル場合)ハ廢殘者ニシテ自ラ

- 生活スルコト能ハザル場合ニ限ル
- 一 前號ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ子女但シ成年ナルモ廢殘者ニシテ自ラ生活スルコト能ハザル者ハ受領スルコトヲ得
- 二 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ孫
- 三 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ父母又ハ其ノ夫ノ父母
- 四 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ祖父母又ハ其ノ夫ノ祖父母
- 五 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ父同フスル未成年ノ弟妹
- 六 前各號ノ遺族ナキトキハ其ノ父同フスル未成年ノ弟妹
- 七 第一號ニ掲グル遺族死亡シ又ハ再嫁セルトキハ其ノ恩給ハ第二號ニ掲グル遺族ニ於テ繼承受領スルコトヲ得繼承受領者未成年トシテ死亡シタルトキハ第三號ニ掲グル遺族ニ於テ繼承受領スルコトヲ得
- 八 第一號ニ掲グル遺族死亡シ又ハ再嫁セル場合ニ於テ第二號ニ掲グル遺族ナキトキハ當該恩給

ハ前各條ノ順序ニ從ヒ繼承受領スルコトヲ得但シ第二號以下ニ掲グル遺族ノ繼承ハ當該繼承者ヲ以テ限度トス

第十一條 遺族ニ支給スル扶助料ハ當該官吏死亡ノ翌月ヨリ之ヲ支給シ左ノ各號ニ掲グル事由ノ發生シタル月ヲ以テ之ヲ止ム

一 其ノ最モ幼少ナル子女成年ニ達シタルトキ
二 其ノ妻死亡シ又ハ再嫁シタルトキ
三 其ノ孫又ハ弟妹ノ中モ幼少ナル者成年ニ達シタルトキ
四 其ノ父母若ハ祖父母又ハ夫ノ父母若ハ祖父母ノ死亡シタルトキ
五 廢殘ハ夫又ハ廢殘ノ成年子女自活ノ能力ヲ生ジ又ハ死亡シタルトキ

第十二條 本條例ニ依リ扶助料ヲ受クベキ遺族數人ノ一人又ハ數人其ノ受領權ヲ擧テ願出タルトキハ當該恩給ハ其ノ他ノ受領權者ニ分割給與スルコトヲ得

第十三條 官吏ニシテ公務ノ爲死亡シタルトキハ本條例第九條ノ規定ニ依リ恩給ヲ給與セラルル場合ヲ除キ當該官吏ノ最終在職時ノ俸給ニ月分ノ限度内ニ於テ其ノ遺族ニ一時賜金ヲ給與スルコトヲ得

第十四條 官吏在職三年以上十年未満ニシテ死亡シタルトキハ其ノ最終在職時ノ二月分ノ俸給ヲ基準トシテ其ノ遺族ニ一時賜金ヲ給與スルコトヲ得

第十五條 本條例ニ掲グル官吏ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月迄トス退職後再任シタルトキハ前在職月數ヲ加算スルコトヲ得但シ刑事處分又ハ懲戒處分ニ依リ免官セラレ後再任官シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 恩給受給權ハ之ヲ差押ヘ讓渡シ擔保ニ供シ又ハ之ヨリ租稅ヲ徵收シ若ハ一切ノ借款ヲ扣除スルコトヲ得

第十七條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣知事任用條例

民國二十七年十一月九日

第一條 縣知事ノ任用ハ省民政廳長ヨリ省政會議ニ提出シテ議決シ省長ヨリ内政部ニ申請シ行政院經由維新政府ニ轉呈シテ之ヲ任命ス

省長ニ於テ所定ノ手續ヲ經ズシテ任命シタル縣知事ハ三月以内ニ前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 年齡三十歲以上ニシテ左ノ資格ノ一ヲ具フル者ハ之ヲ縣知事ニ任用スルコトヲ得

一 内政部縣政訓練所縣知事組ヲ卒業シタル者
二 國內、外大學、獨立學院及專門學校ノ法律、政治、經濟及社會ノ各科ヲ研究シテ卒業證書又ハ其ノ他ノ證明書ヲ所有シ二年以上上置任官タリシ者ニシテ内政部ニ縣知事登錄ヲ申請シ合格シタル者(政府公報第四十二號ニテ本號中訂正)

三 三年以上置任官タリシ者ニシテ現任置任官二人以上ノ證明ヲ得内政部ニ縣知事登錄ヲ申請シ合格シタル者

第四條 縣知事ニ現任シ内政部ノ審査ニ合格シテ推舉セラレタル者

第五條 一年以上置任官タリシ者ニシテ現任置任官二人ノ證明ヲ得内政部ニ縣知事登錄ヲ申請シ合格シタル者ハ縣政訓練所ニ入所セズシテ縣知事ニ任用スルコトヲ得

第六條 院及部ノ現任置任官ニシテ本院及部長官ニ於テ保證シ内政部ノ縣知事登錄ヲ經タル者ハ縣知事ニ任用スルコトヲ得

第七條 縣政訓練所縣知事組ヲ卒業シ縣公署ニ三年以上服務シ内政部ノ審査ヲ經テ成績優良ト認めラレタル者ハ縣知事ニ任用スルコトヲ得

第八條 左ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ縣知事ニ任用スルコトヲ得

一 公權ヲ濫用セラレタル者
二 六月以上ノ徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者
三 公金ヲ費消シタル者

四 收賄ニ因リ處罰セラレタル者

五 阿片又ハ其ノ他ノ代用品ヲ吸食スル者

第七條 縣知事ノ任用順序ヲ分ケテ試用、及責任トス

第八條 縣知事ノ試用期間ハ一年トス

第九條 縣知事ノ心得期間ハ一年トシ試用期間満了後省長ニ於テ成績ヲ列擧シ意見ヲ附シテ内政部ニ申請シ其ノ審査ニ合格スルニ非ザレバ心得ト爲スコトヲ得ズ

第十條 實任縣知事ハ任期ヲ三年トシ心得期間満了後省長ニ於テ成績ヲ列擧シ意見ヲ附シテ内政部ニ申請シ其ノ審査ニ合格スルニ非ザレバ實任ト爲スコトヲ得ズ

第十一條 縣知事ニシテ三年ノ任期満了シ成績優良ナルトキハ之ヲ重任セシムルコトヲ得

第十二條 縣知事ハ違法又ハ職務上ノ過失等ニ因リ懲戒又ハ刑事裁判ニ附セラレ法ニ依リテ停職又ハ免職ヲ受クベキ事由アルニ非ザレバ停職又ハ免職セラ

ルコトナシ

第十三條 縣知事ニ滿五年任且成績特ニ優秀ナル者ハ簡任職ニ升用シ又ハ簡任職ヲ以テ待遇スルコトヲ得

第十四條 縣知事ニシテ法ニ依リ停職又ハ免職ノ處分ヲ受ケ又ハ病死シタル者アルトキハ省政府ハ簡任職者ヲ派シテ代理又ハ心得トナスコトヲ得但シ内政部ニ申請シ其ノ審査ヲ受クルコトヲ要ス

第十五條 縣知事ヲ代理セシメタルトキハ其ノ代理期間ハ三月ヲ逾スルコトヲ得ズ

第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法官任用暫行辦法

中華民國二十七年十二月二十三日(司法行政部令)

第一條 司法官ノ任用ハ暫行通用ノ法院組織法ノ規定ニ依ルノ外本辦法ノ定ムル處ニ依ル

第二條 左ノ資格ノ一ニ該當スル者ハ暫時法院及其ノ分院ノ判事又ハ檢察官ノ代理トシテ派遣スルコトヲ得

一 司法官第一次試驗ニ合格シ未ダ第二次試驗ヲ受ケザル者

二 國立又ハ最高教育行政機關ノ認定又ハ認可ヲ受ケタル國內、國外ノ大學、獨立學院、專門學校ニ於テ法律學科ヲ三年以上修學シ卒業證書ヲ取得シ曾テ司法機關判事又ハ承審員(編者註、縣長ヲ輔佐シ事件ヲ審理スル官吏)ニ二年以上歷任シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者

三 前號ノ證書ヲ有シ曾テ高等以下ノ法院書記官ニ任セラレ記録事務ヲ掌理スルコト五年以上且成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者

四 第二號ノ證書ヲ有シ曾テ委任司法行政官ニ任セラレ民事事件ヲ五年以上處理シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者

五 第二號ノ證書ヲ有シ現在政府所管ノ各省臨時司法機關ニ於テ司法官トシテ六月以上勤務シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者

第三條 前條ノ暫時代理ノ期間ハ一年トス期間満了シタルトキハ所管長官ハ確實ナル考課表及業務成績表ヲ具シタル書面ヲ高等法院院長又ハ首席檢察官ニ提出シ高等法院院長又ハ首席檢察官ハ之ヲ再調査ノ上司法部ニ進達シ部ハ選衡委員會ニ交付シ審査セシム

第四條 前項ノ審査ヲ經成績優良ト認めタル者ハ試補ニ任用シ成績不良ナル者ハ之ヲ罷免ス

第五條 判事又ハ檢察官代理ヲ派遣セントスルトキハ其ノ資格又ハ成績ヲ選衡委員會ニ提出シ其ノ審査決議ヲ經ルコトヲ要ス

第五條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

1011

法院書記官任用暫行辦法

民國二十七年十二月二十三日司法行政部令

第一條 法院書記官ノ任用行院組織法ノ規定ニ依ルノ外本辦法ノ規定ニ依ル

第二條 左記資格ノ一ヲ有スル者ハ暫時法院書記官ヲ代理セシムルコトヲ得

- 一 普通考試ニ合格シタル者
- 二 縣司法處書記官ニ任シ成績優良ニシテ審查ニ合格シタル者
- 三 委任以上ノ文官ニ任シ審查ニ合格シタル者
- 四 專門以上ノ學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ審查ニ合格シタル者
- 五 專門以上ノ學科高級中學校舊制中學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ並司法又ハ行政機關ニ服務シ審查ニ合格シタル者
- 六 法院雇員ノ職ニ在リ民事、刑事、文書、會計、統計、監獄事務ヲ繼續三年以上職務シ成績優良ニ

シテ審查ニ合格シタル者

第三條 前條ノ代理期間ハ一年トシ滿期成績優良ナル者ハ改メテ試署又ハ補實ト爲ス

第四條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

1011

REEL No. A-0708

0469

監獄官任用暫行辦法

民國二十七年十二月二十三日司法行政部令

- 第一條 監獄官ノ任用ハ監獄官任用條例ノ制定前ニ於テハ本辦法ニ依リ之ヲ行フ
- 第二條 甲種監獄典獄長ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス
 - 一 高等考試、監獄官考試ニ合格シ且ニ訓練期間満了シ又ハ規定ニ依リ訓練ヲ免除セラレタル者
 - 二 甲種監獄典獄長ニ任シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
 - 三 乙種監獄典獄長、甲種監獄ノ分監長、主科看守長及地方法院以上ノ看守所所長ニ八年以上任シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
 - 四 司法官及兼任司法行政官ニ任シテ審査ニ合格シ且ニ監獄事務ヲ三年以上執務シ成績顯著ナル者
 - 五 國立又ハ最高教育行政機關ノ設立又ハ認可ヲ經タル國內外、大學、獨立學院、專門學校ニ於テ政

一〇四

- 治、法律、社會、監獄等ノ學科ヲ三年以上履修卒業シテ證書ヲ有シ、且ニ委任司法行政官ニ任シ監獄事務ヲ五年以上執務シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
- 第六條 卒業證書ヲ有シ新監獄ニ於テ訓練期間満了シ監獄學科目ニツキテ專門書ヲ著作シ司法行政部ノ審査ヲ經テ監獄官ノ指導又ハ參考ノ用ニ供スルニ足ルト認メタル者
- 第三條 乙種監獄典獄長、甲、乙兩種監獄ノ分監長、主科看守長、看守所所長、所官、管獄員ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ選任ス
 - 但シ第六條ノ資格ヲ有スル者ノ初任ノ場合ハ甲、乙兩種監獄ノ看守長、所官、管獄員或ハ乙種監獄ノ分監長及主科看守長ニ限ル
 - 一 普通考試、監獄官考試ニ合格シテ訓練期間満了シ又ハ規定ニ依リ訓練ヲ免除セラレタル者
 - 二 監獄練習員考試又ハ監獄官考試ニ合格シ新監獄ニ於ケル訓練期間満了シテ證書ヲ有シ曾テ監獄、

- 看レ所事務ヲ執務シタル者
- 三 委任典獄長、分監長、主科看守長、看守所長、看守所所長、所官、管獄員ニ任シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
- 四 委任司法行政官ニ任シテ監獄事務ヲ三年以上執務シ成績顯著ニシテ審査ニ合格シタル者
- 五 警監學校監獄專修科又ハ最高司法行政機關ノ認可ヲ經タル監獄學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ監、所職員ニ任シ成績優良ニシテ審査ニ合格シタル者
- 六 候補看守長ニ二年以上任シ成績優良ナル者
- 第四條 教師及講師ハ師範學校、高級中學校又ハ舊制中學校卒業シ又ハ同等ノ學力ヲ有シ且文章、講演ニ秀アル者ノ中ヨリ選任ス
- 第五條 醫士、藥劑士、技士ハ專門技術學校ヲ卒業シ又ハ同等ノ學力ヲ有シ且經驗ニ富メル者ノ中ヨリ選任ス
- 第六條 職業學校ヲ卒業シテ證書ヲ有シ且ニ二年以上監獄事務ニ從事シ成績優良ニシテ審査ニ合格シ

一〇五

- タル者ハ甲、乙兩種監獄ノ第三科主科看守長又ハ看守ニ任スルコトヲ得
- 第七條 專門學ニ於テ法律、社會、監獄等ノ科ヲ一年半以上履修シ又ハ中學校以上ヲ卒業シテ證書ヲ有シ主任看守ニ三年以上任シテ成績優良ナル者ハ司法行政部ニ申請シ其ノ認可經テ候補看守長ニ任スルコトヲ得
- 第八條 左記各號ノ一ニ該當スル者ハ第二條乃至第七條各號ノ資格具テ有スルモ監獄官ニ任スルコトヲ得ズ
 - 一 公權ヲ褫奪セラレテ未ダ復權セザルモノ
 - 二 公金ヲ賈消シテ未ダ完済セザル者
 - 三 收賄ニ關リ處罰セラレタル者
 - 四 鴉片又ハ其ノ代用品ヲ吸飲シタル者
 - 五 精神病者
 - 六 不具又ハ身體康弱ニシ服務ニザル堪者
 - 七 破産ノ宣告ヲ受ケ未ダ復權セザル者
 - 八 共產黨ニ加入シタル者

第九條 初任又は前任監獄長及委任ノ監獄所職員ハ濫署ヲ以テ始メトシ滿一年ヲ經過シ成績優良ナルニ非ザレバ委任監獄所職員ニ在リテハ實授得難任監獄典獄長ニ在リテハ濫署スルコトヲ得ズニスルニハ更滿一年ヲ經過實授スルコトヲ非得ス

第十條 監獄官ノ任用ハ司法行政部部長其ノ資格及成績ヲ甄用委員會ニ提出シ其ノ審査決議ヲ經テ決定スヘシ

第十一條 各高等法院院長ハ第二條、第三條ノ各號ノ資格ヲ有スル者ヲ其ノ資格、成績及任ニ堪フベキ職務ヲ列記シ證明文書ヲ添ヘテ司法行政部部長ニ申請シ甄用委員會審議決議ヲ後之ヲ存記スルコトヲ得

第十二條 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

106

警察官任用暫行辦法

民國二十七年五月十二日(內政部指令)

一 警察官ハ法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク、外左ノ各款ノ規定ニ依リ之ヲ任用ス

二 簡任警察官ハ左ノ各號ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ內政部ノ内申ヲ俟テ之ヲ任命ス

(一)曾テ簡任警察官ニ任セラレ成績顯著ナル者

(二)曾テ三年以上簡任警察官ニ任セラレ成績顯著ナル者

(三)曾テ簡任以上ノ行政官ニ任セラレ成績顯著ニシテ警察ノ經驗アル者

三 薦任警察官ハ左ノ各號ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ所轄機關ニ於テ內政部ニ内申ノ上之ヲ任用ス

(一)外國又ハ國內ニ於ケル正式ノ警官學校又ハ法政學校ヲ卒業シ警察行政事務ニ三年以上従事シタル者又ハ薦任警察官トシテ登記セラレタル者

107

(二)高等試験又ハ警察行政官試験ニ及第シタル者

(三)曾テ薦任警察官ニ任セラレ成績顯著ナル者

(四)曾テ委任警察官ニ任セラレ繼續服務二年以上ニシテ成績顯著ナル者

(五)正式ノ警官學校ヲ卒業シ佐官以上ニ任セラレ成績顯著ナル者

委任警察官ハ左ノ各號ノ一ニ該当スル者ノ中ヨリ所轄機關ヲ任用シ內政部ニ報告ノ上査定ヲ請フベシ

(一)外國及國內ニ於ケル正式ノ警官學校ヲ卒業シタル者

(二)警察行政官試験ニ及第シタル者

(三)外國及國內ニ於ケル正式ノ法政學校ヲ卒業シ警察ニ關スル學識及經驗アル者

(四)曾テ警察官ニ任セラレ服務繼續二年以上ニシテ成績顯著ナル者

(五)曾テ委任文官又ハ軍官ニ任セラレ成績顯著ニシテ警察事務ノ經驗アル者

- 五 警察機關内ノ各警察隊長ニハ前二條ニ準據シタル有資格者ヲ任用スルノ外正式ノ軍官學校ヲ卒業シ警察ニ習熟シタル者ヲ陸軍ノ上任用スルコトヲ得
- 六 各警察機關ノ技術人員及普通事務人員(例ハバ警者及會計、庶務係等ノ如キ)ハ專門技術者ヲ任用シ又ハ當該事務ヲ辦理スルニ付經驗アル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ他ノ警察事務ニ轉任セシムルコトヲ得ズ
- 七 警察官ヲ任用セントスルトキハ豫メ證明書類ヲ提出セシメ審査ニ合格シタル後之ヲ採用スルコトヲ得任用後其ノ資格經歷ニ虚偽アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ罷免シ部ヨリ警政各機關ニ通令ノ上將來ノ採用ヲ止ム
- 八 本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警士教習所章程

民國二十七年七月十八日

- 第一條 南京及各省警士ハ本章程ノ規定ニ依リテ訓練ス
- 第二條 南京警察廳、各省警務處及警局ハ各警士教習所ヲ設立シ各縣ハ必要ニ應ジ警務處ヲ設立スベシ
- 第三條 前項警士教習所ノ設立ハ内政部ニ申請シテ登錄ヲ受クベシ
- 第四條 教習所ハ警長ヲ養成スル爲メ警長班ヲ附設スルコトヲ得其ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第五條 教習所ニハ左ノ教職員ヲ設ク
 - 一 所長一名ハ全所ノ事務ヲ管理シ合格者中ヨリ主管機關之ヲ選ビ内政部ニ申請シテ認可ヲ受クベシ但シ其ノ他ノ者ハ所長改メテ之ヲ兼任得トシ主管機關ニ於テ合格者中ヨリ之ヲ委用シ内政部ニ報告シテ登錄ヲ受クベシ

- 二 教習主任一名ハ所長ノ命ヲ承ケ所ノ教務ヲ管理シ主管機關ニ於テ合格者中ヨリ之ヲ委用シ内政部ニ申請シテ登錄ヲ受クベシ
- 三 教官及教員ハ各班三名乃至五名トシ學科ノ教授及實施方法ヲ分擔シ警察學識ニ富ミ且多年警職ニ在ル者ヨリ所長之ヲ選ビテ主管機關ニ申請シ之ヲ委任ス教員ハ所長之ヲ聘任シ主管機關ニ報告シテ登錄ヲ受クベシ
- 四 前項ノ教員ハ所在地ノ警察學識及經驗ヲ有スル現職警官ヲ以テ兼任セシムルコトヲ得但シ其ノ授課時間ハ每週六時間ヲ超ユルコトヲ得ズ
- 五 總隊長一名、隊長ハ各班一名トシ所長ノ命ヲ承ケテ術科訓練及規律等ノ事ヲ掌リ主管機關ニ於テ合格者中ヨリ之ヲ委用シ内政部ニ申請シ登錄ヲ受クベシ但シ一班ノミヲ設クルトキハ總隊長ヲ設クス分隊長ハ各班三名乃至四名トシ所長ニ於テ合格者中ヨリ之ヲ選ビ主管機關ニ申請シ之ヲ委任ス

五 事務主任一名ハ所長ノ命ヲ承ケテ主管事務ヲ處理シ所長ニ於テ之ヲ選ビ主管機關ニ申請シテ之ヲ委任ス但シ班數ニ以下ナルモノハ之ヲ設置セザルコトヲ得

六 事務員ハ三名乃至九名、書記ハ四名乃至十二名トシ所長ノ命ヲ承ケテ事務ヲ處理シ所長ニ於テ之ヲ任用ス其ノ數ハ班數ヲ標準トシ主管機關ニ申請シテ之ヲ決定ス

第五條 學警ニ採用セラルル者ハ確實ナル保證アリ且左ノ各號ニ該當スルコトヲ要ス

- 一 年齢二十歳以上三十歳以下
- 二 高級小學卒業又ハ高級小學卒業ト同等ノ學力ヲ有スル者
- 三 體質強健ニシテ身長五尺二寸以上胸圍身長ノ約二分ノ一ニ等シキ者
- 四 儀容端正言語明晰ナル者
- 五 視聽力鋭敏ナル者
- 六 精神態度快活ナル者

第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ採用スルコトヲ得ズ

- 一 徒刑ノ宣告ヲ受ケ執行確定セル者
- 二 破産處分ヲ受ケ未ダ債務ヲ完済セザル者
- 三 持病又ハ特殊ノ嗜好ヲ有スル者
- 四 性質狂暴又ハ怯懦ナル者

第七條 學警ノ採用ハ先ヅ體格検査ヲ經ルベシ第五條第三號乃至第六號ノ一ニ該當セズ又ハ第六條第三號及第四號ノ一ニ該當スル者ハ筆記試験及口頭試験ニ應ズルコトヲ得ズ

第八條 學警採用ノ筆記試験科目左ノ如シ

- 一 國文
- 二 常識試験
- 三 智力試験
- 四 算術

第九條 口頭試験ハ筆記試験ノ主要科目及應試者ノ學術經歷ニ付詳細ニ試問ヲナシ其ノ點數ハ全點數ノ六分ノ一トシ之ト筆記試験點數トヲ合計シテ平均

六十點ニ滿ツル者ヲ以テ合格トス

第十條 未ダ入所訓練ヲ經ザル警士ハ選拔シテ入所シ正式訓練ヲ受クベシ其ノ入所ヲ許セザル者ハ免職セシムルコトヲ得

第十一條 教練所學警ノ衣食及書籍等ノ費用ハ所ニ於テ之ヲ給與シ別ニ毎月四元乃至八元ノ手當金ヲ支給ス故無クシテ中途退學スル者ハ實費ニ照シテ賠償セシムベシ其ノ選拔入所シタル者ハ引續キ俸給ヲ受クルコトヲ得但シ食費ハ之ヲ差引クベシ

第十二條 教練所ノ科目左ノ如シ

(甲) 訓育其ノ細目左ノ如シ

- 一 精神講話
- 二 長官訓話

(乙) 學科其ノ細目左ノ如シ

- 一 警察要旨
- 二 行政警察 (保安警察、衛生警察、戶籍警察、外來警察、消防警察等)
- 三 司法警察

四 警察實務

- 五 非常警察 (戰時警察、暴動處理、警備連署等)
- 六 警察法令 (警察機關ノ組織系統及重要法令等)
- 七 違警罰法
- 八 刑法大意
- 九 偵探學大意
- 十 社會概況
- 十一 警察地理
- 十二 軍事學大意
- 十三 外國語

(丙) 術科其ノ細目左ノ如シ

- 一 軍事教練
- (一) 各個教練
- (二) 分隊教練
- (三) 小隊教練
- (四) 中隊教練
- (五) 陣中勤務大意
- (六) 市街戰術

- (七) 武器ノ使用
- 二 應用技能
 - (一) 捕獲術
 - (二) 擲角
 - (三) 劈刺
 - (四) 簡易ナル救火術
 - (五) 救急治療
 - (六) 防空演習
 - (七) 戰時警察勤務演習
 - (八) 舟、車及馬車ノ運轉又ハ馬術
- 三 體育
 - (一) 器械運動
 - (二) 障礙運動
 - (三) 國術
 - (四) 球技
 - (五) 陸上競技
- (丁) 課外講習其ノ科目左ノ如シ
 - 一 實習

- 二 知名人士ノ講演
- 三 參觀
- 四 勤務講習
 - 右ノ科目ハ地方ノ特殊事情ニ由リ増減又ハ變更ノ必要アルトキハ主管機關ニ申請シ其ノ認定ヲ受ケ
 - 並ニ内政部ノ登録ヲ受クルコトヲ要ス
 - 科目ニシテ地方性ヲ有スルモノハ其ノ地ノ教材ヲ採用スルヲ以テ原則トス
- 第十三條 教練ニ必要ナル課本ハ暫ク各所之ヲ編纂シテ主管機關ニ提出スモシ主管機關ハ之内政部ニ轉報シ裁可ヲ受クベシ
- 第十四條 教練所ノ學費ハ三月ヲ以ツテ卒業トス必要ト認ムルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得ルモ合計六月ヲ超ユルコトヲ得ズ各所ハ三班ヨリ成リ各班ハ百名トス原則トシテ毎月一回入學試験ヲナスベシ
- 第十五條 卒業試験ハ計分法ヲ用ヒ各科分數平均滿六十分以上ノ者ヲ以テ及第トシ正警ニ補充ス其ノ成績九十分以上ノ者ハ警長ニ採用スルコトヲ得落第者

- ハ所ニ留メ第二期補官ニ編入ス更ニ落第セル者ハ之ヲ除名スベシ
- 第十六條 學費ハ卒業前交替シテ所在地ノ警察機關ニ派駐シ一週間ノ實習勤務ヲナサシムベシ
- 第十七條 學費ノ卒業毎ニ所ハ人名簿ヲ作成シ主管機關ニ提出ス主管機關ハ内政部ニ轉報シテ登録ヲ受クベシ
- 第十八條 教練所ノ經費ハ主管機關ニ於テ期ニ分チテ豫算ニ組入レ之ヲ支出ス毎月ノ支出ハ所長ニ於テ明細書ヲ作成シ主管機關ニ提出シテ審査ヲ受クベシ
- 第十九條 教練所事務及管理事項ノ細則ハ所長之ヲ立案シ主管機關ニ報告シ之ガ裁定ヲ受クベシ
- 第二十條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ内政部ハ必要ニ應ジ之ガ修正ヲナスコトヲ得

戰區警察機關長警署補暫行辦法

民國二十七年七月十八日內政部令

- 第一條 戰區內ノ新規ニ復活セル警察機關ノ長警署ハ暫時各該機關ニ於テ本辦法ニヨリ之ヲ募集補充スベシ
- 第二條 警士ハ左ノ各號ニ該當スル者ノ中ヨリ試験ニ依リ之ヲ選ブベシ
 - 甲 年齡二十歲以上三十五歲以下
 - 乙 高級小學卒業又ハ之ニ相當スル程度ノ者
 - 丙 身長五尺二寸以上ノ者
 - 丁 儀容端正言語明晰ナル者
 - 戊 視聽力鋭敏ナル者
 - 己 精神態度快活ナル者
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ採用スルコトヲ得ズ
 - 甲 品行不良又ハ徒利ノ執行ヲ受ケタル者
 - 乙 破産處分ヲ受ケ未ダ債務ヲ完済セザル者
- 丙 持病又ハ特殊ノ嗜好アル者
- 丁 性質狂暴又ハ怯懦ナル者
- 第四條 警長ハ左ノ規定ノ一ニ該當スル者ヲ以テ之ニ任用スベシ但シ新規復活ノ警察機關ニ於テハ警察職務ニ任ジタルコトアリ且前第二條ノ規定ニ合スル者ハ年齡四十五歲以下ノ者ニ就キ試験ヲ經テ之ヲ選任スルコトヲ得
 - 甲 警士ノ成績優良ナル者ハ級ヲ進ヒテ昇進ス
 - 乙 警長ノ正式訓練ヲ受ケタル者
- 第五條 今次事變ノ影響ニ依リ離職セル長警ニシテ年齡四十歲以下ノ者ハ原服務地ノ警察機關ノ登記ヲ本トシ選拔シテ採用ス但シ證明有リ且第二條各號ノ一ニ該當セザル者ナルコトヲ要ス
- 第六條 前條登記ノ長警ニシテ選拔試験ニ合格シタル者ハ優先シテ之ヲ採用スベシ
- 第七條 本辦法ニ依リ採用セラレタル長警ニシテ未ダ勤務セザル者ハ其ノ地ニ於テ保證人ヲ立テ届出ザルコトヲ要ス
- 第八條 本暫行辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

教育部臨時教員養成所規程

民國二十八年一月二日

- 第一條 本所ハ臨時ノ需要ニ適應スル爲高級及初級小學教員ノ養成ヲ以テ目的トス
 - 第二條 本所ノ修業期間ハ本科ハ六月特科ノ短期訓練班ハ三月トス
 - 第三條 本科ノ入學資格ハ中學卒業又ハ同等程度以上ノ學力ヲ有スル者タルコトヲ要シテ以短期訓練班ハ師範學校卒業生又ハ小學教員ニ任ジタル者タルコトヲ要ス
 - 第四條 本所ニ所長一人ヲ置キ教育部長ノ命ヲ承ケ所ノ事務ヲ管理
 - 第五條 本所ニ左記職員ヲ置キ教育管理事務ヲ分管セシム
 - 教務主任一人、教務員一人、訓育主任一人、訓育主任二人、事務主任一人、事務員一人、會計員一人、書記四人、助理員四人、
- 以上ノ職員ハ所ニ於テ招聘シテ專任スル外教育部職員ヲシテ兼任セシムルコトヲ得
- 第六條 本所ハ各科專門家若干人ヲ招聘シテ夫々各科教授ニ任命ス
 - 第七條 本所學生ハ試驗畢業ノ外省市機關ヨリ之ヲ推薦スルコトヲ得
 - 第八條 本所學生ニ對シテハ所ヨリ食事、宿舍、制服ヲ給與スルノ外毎月本科十元、特科十五元推薦ヲ支給ス
 - 第九條 本所ノ試験ヲ月次試驗學期試驗卒業試驗ノ三種ニ分ツ
 - 月考 毎月末ニ之ヲ行フ
 - 期考 三月毎ニ之ヲ行フ但シ特科並ニ本科第二期ニ在リテハ卒業試験ト合併シテ之ヲ行フ
 - 第十條 本所ノ學生數ハ百六十名以內トシ男女各一組各四十人トス
 - 第十一條 本所ノ課程ヲ甲、乙、丙ノ三種ニ分ツ
 - 甲 必修科目毎週ノ時間數

國學三時間、體育三時間、教育學(併せて教育宗旨ヲ宣明ス)三時間、各科教授法六時間、教育行政二時間、教育心理一時間、學校衛生一時間、日文三時間
 乙 選修科目及毎週ノ時間數
 音樂二時間、美術二時間、勞作二時間、家政二時間
 丙 討論科目及毎週ノ時間數
 歴史地理二時間、數學二時間、物理三時間、化學二時間、生物二時間
 第十二條 學生ハ必修科目ノ外其ノ他ノ科目一科乃至二科ヲ選修スルコトヲ得
 第十三條 毎週ノ各組ノ授業時間數ハ三十二時間以内トス
 第十四條 本所學生ニシテ各科ノ課程ヲ修了シ試験ニ合格シタルトキハ卒業證書ヲ授與ス
 第十五條 本所學生ニシテ其ノ操行成績不良ナル者ハ卒業スルコトヲ得ズ

一一六

第十六條 本所卒業生ハ教育部ニ教員合格證書ノ授與ヲ請求シ且ニ各校ニ選令ヲ以テ優先シテ任用セシムルコトヲ得
 第十七條 本規程ハ必要ニ應ジ所長ヨリ教育部ニ申請シテ之ヲ改正スルコトヲ得
 第十八條 本規程ハ公布ノ日より之ヲ施行ス

教育部臨時教員養成所細則

民國二十八年一月二日

第一條 本所ノ學生募集事務ニ關シテハ招生委員會ヲ組織シテ之ヲ辦理スベシ
 第二條 本所學生ハ試驗募集ノ外江蘇、浙江、安徽ノ三省政府及南京、上海、杭州ノ三市政府ヨリ推薦シテ之ニ充ツルコトヲ得
 第三條 本所ノ試驗募集事務ハ南京ニ於テハ部ニ於テ辦理スノ外各省、市政府及駐滬辦事處ニ委託シテ之ヲ辦理セシムルコトヲ得
 第四條 各省、市ノ試驗選拔規則ハ各省、市政府ニ於テ適宜之ヲ定ム
 第五條 受験志願者及保證推薦セラレルベキ中學卒業生及曾テ小學教員ニ任シタル者ハ思想端正、品行端正、身體強健ニシテ反響言行ノ輕無ナル者ヲ以テ合格トス
 第六條 受験生ハ本部駐滬辦事處ニ通行證ノ下附

一一七

申請スルコトヲ得採用者ハ保證書ヲ給シ保送上京シ部ニ到リタルトキハ到着ノ旨ヲ報告スルモノトス
 第七條 學生ノ上京旅費ハ推薦機關ヨリ之ヲ支給ス
 第八條 推薦及採用ノ各生ニ對シテハ各自攜帶スル墨鏡、毛筆及硯、衣服、靴下等ヲ除キ他ハ所ヨリ之ヲ支給ス
 第九條 學生ノ攜帶荷物ハ簡潔ナルコトヲ要シ禁令ニ違背シ又ハ不必要ナル物件ヲ持參スルコトヲ得ズ
 第十條 本所學生ハ同所ニ居住スルモノトシ男女宿舍ハ獨立シテ之ヲ設置ス
 第十一條 本所職員ハ專任ヲ除キ部ニ於テ兼任スル者ニ對シテハ俸給ヲ支給セズ、但シ相當ノ手當ヲ支給ス
 第十二條 本所ノ考試試驗ハ百點ヲ以テ滿點トシ、六十點以上ヲ及第トス但シ學期試驗及卒業試驗ニ在リテハ其ノ成績ノ計算方法下記ノ如シ

月次試験ノ成績ハ百分ノ六十ヲ占ム
學期試験成績ハ百分ノ四十ヲ占ム
第十三條 本所學生ニシテ學期試験ノ成績優秀ナル
トキハ下記ノ奨學金ヲ支給ス
本科第一位獎金三十元、第二位獎金二十元、第三位
獎金十元
特科第一位獎金五元、第二位獎金三元、第三位
獎金十元
第十四條 本所職員ノ俸給定額左ノ如シ
所長月俸四百元、交際費一百元
事務、訓育、事務主任各月俸二百元
助務、訓育、事務、會計員各月俸一百元
第十五條 本所各職員ハ兼任者ヲ除クノ外ハ均シク
全日所ニ於テ勤務スルコトヲ要ス
第十六條 教員ノ俸給ハ毎時間四元乃至七元トシテ
計算シ毎月時間數ニ按シテ之ヲ支給ス
第十七條 本所ハ時間ニ按シテ授業スルヲ除キ中外

ノ學者ヲ招待シテ課外講義ヲ爲スコトヲ得
第十八條 本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス、但シ必要
ニ應ジ所ヨリ部ニ申請シテ之ヲ改正スルコトヲ得

司法行政部日直・宿直規則
民國二十七年十一月三日(司法行政部令)
第一條 本部ハ事務時間外ニ發生セル臨時事件處
理ノ爲メ日曜日及休日ニ於テモ職員ヲシテ宿直セシメ
又毎日勤務時間後モ職員ヲシテ宿直セシム
第二條 日直ノ人員ハ二人トシ總務司長ニ於テ列
任職員中ヨリ交際ニ之ニ當ラシメ日直表ヲ作成シ次
長ニ提出シテ査閱ニ供スベシ宿直員ノ人數ハ八人ト
シ總務司長ニ於テ列任及原員中ヨリ之ヲ指定シ四組
ト爲シ交代ニ宿直セシム
第三條 日直ノ時間ハ平時ノ法定事務時間ヲ以テ
標準トシ宿直時間ハ毎日事務終了ノトキヨリ翌日ノ
勤務時間ニ至ル迄トス日曜日及休日ノ宿直時間モ亦
平日ト同シ
第四條 日直及宿直者ハ日直及宿直時間内ニ在リ
テハ本部ノ對内及對外ノ一切ノ事項ニ關シ適當且慎
重ニ處理スベシ非常ノ事故有リタルトキハ緊急處分

ヲ爲スト共ニ處理ノ情况ヲ長官ニ報告スベシ
第五條 日直及宿直者ハ日直及宿直勤務準備
凡テノ收發文書及處理事項ヲ詳細ニ記載シ翌朝總務
司長ニ呈送シテ次長ノ査閱ヲ受クベシ
第六條 日直及宿直者ノ收發シタル電報ハ直ニ
譯シ電報覆寫紙ヲ用ヒテ四枚抄寫シ一枚ヲ原電ニ夾
入シ殘余ノ三枚ハ部ニ分送シ次長ノ査閱ニ供シ同時
ニ主管司長ニ其ノ旨通知スベシ秘密電報ハ總務處ニ
於テ翻譯ノ上呈出スベシ
第七條 日直及宿直員ノ急要文書ノ收發ハ秘密事
項ヲ除キテハ原封ノ儘部次長ニ送呈スルモノノ外ハ
開封閱覽シタル後急要ヲ認メタルトキハ直ニ主
管司科長官ニ報告ノ上處理スベシ若シ指示又ハ專門
家ノ參加ヲ必要トスル場合ニ於テハ部次長ニ呈送シ
査定處理ヲ乞フト同時ニ所管司科長ニ報告スベシ
第八條 日直及宿直員ハ左ノ事項ニ對シ特ニ注意
スベシ
一 門、窓ノ閉鎖

警察制服條例

民國二十七年九月五日內政部令

- 第一條 警察官吏ノ制服ハ本條例ノ規定ニ依ル
- 第二條 制服地ハ綿織品又ハ毛織品トス
- 第三條 上衣ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作製ス
 - 一 樣式 學生服型長ズボン(圖參照)
 - 二 ボタン 徑七分ニシテ色ハ制服ト同ジク革質圓形トス
 - 三 袖口 袖口ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作製ス
 - 四 領口 上部硬質軍帽式前高後低ニシテ前部ノ高サハ帽簷ヨリ上部迄三寸二分後部ノ高サハ帽簷ヨリ一寸八分色ハ衣ト同ジク中央ニ則形大鐵釦ヲ嵌ム(直徑一寸九分橫徑一寸六分)黒地ノ中央ニ圓章ヲ置キ(凸形珠環實徑五分五色五角形)四周ヲ大ナル網羅ヲ以テ圍ミ金線ヲ以テ刺繡ス帽簷ニハ幅三分ノ金線ヲ刺任官ニハ三條委任官ニハ二條各々二分ヲ隔テ列任官ニハ一條ヲ卷ク
- 第四條 帽子ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作製ス
 - 一 警官 上部硬質軍帽式前高後低ニシテ前部ノ高サハ帽簷ヨリ上部迄三寸二分後部ノ高サハ帽簷ヨリ一寸八分色ハ衣ト同ジク中央ニ則形大鐵釦ヲ嵌ム(直徑一寸九分橫徑一寸六分)黒地ノ中央ニ圓章ヲ置キ(凸形珠環實徑五分五色五角形)四周ヲ大ナル網羅ヲ以テ圍ミ金線ヲ以テ刺繡ス帽簷ニハ幅三分ノ金線ヲ刺任官ニハ三條委任官ニハ二條各々二分ヲ隔テ列任官ニハ一條ヲ卷ク
- 第五條 靴ハ革又ハ布製黒靴トシテ上部ハ紐ヲ以テ之ヲ結ブ(圖參照)但シ消防隊長靴ハ長靴ヲ穿クコトヲ得
- 第六條 外蓋ハ黒色裡面ハ藍色ニシテ長サ膝ヲ過ク(圖參照)
- 第七條 靴ハ革又ハ布製黒靴トシテ上部ハ紐ヲ以テ之ヲ結ブ(圖參照)但シ消防隊長靴ハ長靴ヲ穿クコトヲ得
- 第八條 襟章ハ襟ノ兩端左右ニ之ヲ着ケ左右同長二寸五分幅一寸二分外端ハ兩角ヲ截リ左ノ各號ニ區別シテ之ヲ作製スベシ
 - 一 警官 襟章ハ白磁子ノ硬ク裏打チシタルモノヲ用ヒ左邊ニ所在地又ハ特別警察機關ノ簡名一列

一一〇

ハ南京ハ南京ノ二字上海市ハ滬市ノ二字江蘇水師隊ハ蘇水師ノ三字ヲ綴ルガ如シ)字ハ銅質黃色ヲ用ヒ其ノ直接管轄地ノ警官(例ハ警察長)ハ更ニ左邊地名ノ後ニ所在地ノ簡名(例ハ南京下關警察署長ハ南京ノ二字ノ後ニ下關ノ二字ヲ加フルガ如シ)ヲ附加ス右ニハ銅質五角四分徑ノ星ヲ附ク勳任官ハ紅星、委任官ハ金星、列任官ハ藍星トス其ノ區別左表ノ如シ(圖參照)

長 警 長 警ノ襟章ノ實ハ白色ノ折重ネ、襟トシテ別リタル儘ノ木ヲ挿入シ其ノ左邊ニ所在地局所隊又ハ特種警察機關簡名(例ハ南京警察廳下關警察署長警ハ南京下關ノ四字、上海市警察局浦東警察署長警ハ滬市浦東ノ四字、南京警察廳保安警察隊ハ南京警察隊ノ四字、各縣警察所長警ハ縣名ヲ綴ルガ如シ)ヲ綴リ右邊ハアラビヤ數字ヲ綴ル學警ハ左ニ地名及學警ノ各字ヲ綴リ右ニアラビヤ數字ヲ綴ル請願長警ハ左ニ地名及請願ノ各字ヲ綴リ右ニアラビヤ數字ヲ綴ル其

ノ文字ハ均シク銅質黃色トス(圖參照)

第九條 袖章ハ兩條式ノ糸ヲ以テ兩袖袖口ヨリ四寸ノ所ニ卷キ左ノ各號ニ區別ニ依リ之ヲ作製ス

一 警官 袖ニ幅三分ノ金線ヲ刺任官ニハ三條委任官ニハ二條各々二分ヲ隔テ列任官ニハ一條ヲ卷ク(圖參照)

二 長警 袖ニ三分ノ絲線一本冬ハ黃色ヲ用ヒ夏ハ黒色ヲ用フ(圖參照)警士ハ袖章ナシ

第十條 武裝帶ハ革質黒色ニシテ下部ハ腰間ヲ束シ幅一寸八分長サ二尺八寸乃至三尺八寸首端ハ銅質ノ金具ヲ用ヒ尾端附近ハ各列七個宛二列ノ孔ヲ鑿ツ銅金具ヨリ三分ノ一距ル所ニ佩刀帶二條ヲ着ケ長サ六寸乃至一尺六寸ニシテ一定セズ其ノ上下ニ銅質ニツケル鍍金ノ環鈎ヲ附ス上端ノ鈎ハ腰ノ帶ヲ連ネ下端ノ鈎ハ佩刀ヲ繫グ上部ハ右肩ニ斜ニ帶フ長短二帶ニ分子長帶ハ一尺八寸乃至三尺六寸短帶ハ六寸乃至八寸ニシテ一定セズ兩帶ハ銅鈎ヲ以テ胸前ニ繫ギテ之ヲ帶ビ兩端ニ銅質環鈎ヲ附シテ腰帶ノ前後ニ連ル

一一一

REEL No. A-0708

(附圖省略)

第十一條 警上ノ用フル腰帶ハ革質黒色ニシテ幅一寸六分長サ二尺八寸乃至三尺八寸其ノ先端ノ鈎ハ銅質ヲ用ヒ尾端ニハ七個乃至九個ノ孔ヲ鑿ツ

第十二條 脚絆ハ左ノ規定ニ依ル

一 警官 脚絆ハ革製黒色ニシテ警察官官長ノミ之ヲ用フ

二 長警 脚絆ハ衣製深草緑色ニシテ其ノ短又ホソナ着セルモノハ深草緑色ノ巻脚絆ヲ用フルモノトス

第十三條 制服ノ色ハ夏季ハ黄色又ハ白色ニシテ春秋冬ハ黄ヲ用フ着換ヘノ時期ハ各地最高警察官之ヲ定ム

第十四條 氣候ノ酷熱又ハ嚴寒ノ地方ニ在リテハ其ノ帽式ハ各該地方最高長官ニ於テ本條例ヲ參照シ別ニ之ヲ定ム但シ内政部ノ許可ヲ得テ登錄スルコトヲ要ス

第十五條 本條例ハ公布後二月内ニ之ヲ施行ス

判事檢察官律師書記官服制令

民國二十七年十一月二十一日司法行政部令

第一條 判事、檢察官及律師ノ制服式ヲ第一圖及第二圖ノ如クシ色ハ黒ヲ用ヒ襟、袖及立襟ハ緑ヲ取ル

第二條 制服ノ綠取ハ色ヲ以テ之ヲ區分ス

一 判事 織金

二 檢察官 紫絨

三 律師 黒絨

第三條 書記官ノ制服式ヲ第一圖及第二圖ノ如クス但シ綠ヲ取ラズ

第四條 判事、檢察官、律師及書記官ノ制帽式ヲ第三及第四圖ノ如クシ帽沿(鉢巻)ハ絨ヲ用ヒ色ハ黒ヲ用フ側面及上端ノ綠ハ制服ノ綠取ノ色ノ如クス

第五條 制服、制帽ノ各材料ハ國產絹織品及毛織品ヲ用フ

第六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(附圖省略)

REEL No. A-0708

判事檢察官律師書記官服制施行令

民國二十七年十一月二日(司法行政部令)

- 第一條 判事、檢察官、律師及書記官ハ服制令施行後ニ於テハ臨庭ノ際制服ヲ着用ス
- 第二條 判事、檢察官、律師及書記官ハ臨庭着席後制帽ヲ脱キテ机上ニ置クコトヲ得
- 第三條 裁判長又ハ判事ハ判決宣告ノ際起立者帽スルコトヲ要ス
- 第四條 判事、檢察官、律師及書記官ハ法庭外ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ平服ヲ着用ス
- 第五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書

REEL No. A-0708

0480

第四編 文書

判事檢察官律師書記官服制施行令

民國二十七年十一月二十二日(司法行政部令)

- 第一條 判事、檢察官、律師及書記官ハ服制令施行後ニ於テハ臨庭ノ際制服ヲ着用ス
- 第二條 判事、檢察官、律師及書記官ハ臨庭着席後制帽ヲ脱キニ机上ニ置クコトヲ得
- 第三條 裁判長又ハ判事ハ判決宣告ノ際起立着帽スルコトヲ要ス
- 第四條 判事、檢察官、律師及書記官ハ法庭外ニ於テ職務ヲ執行スルトキハ制服ヲ着用ス
- 第五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

REEL No. A-0708

0481

公 文 書

公文程式暫行條例

民國二十七年四月十八日(公布)

- 第一條 本條例ニ規定スル公文ノ類別左ノ如シ
一 令 法令ノ公布官吏ノ任免及指揮ヲ爲ス場合
之ヲ用フ
- 二 訓令 上級機關ニ於テ所屬下級機關ニ對シ諒諭
(諭旨)又ハ差遣ヲ爲ス場合之ヲ用フ
- 三 指令 上級機關ニ於テ所屬機關ノ出願ニ對シ指
示ヲ爲ス場合之ヲ用フ
- 四 委任令 官吏ヲ任命スル場合之ヲ用フ
- 五 呈 下級機關ニ於テ上級機關ニ對シ又ハ人民
ニ於テ官署ニ對シ陳請スル場合之ヲ用フ
- 六 公 函 同級機關又ハ隸屬關係ナキ機關ノ公文往
復ノ場合之ヲ用フ
- 七 批 各機關ニ於テ人民ノ陳請事項ニ對シ可否
ヲ分別スル場合之ヲ用フ

第二條 公文ハ年月日ヲ明示シ且責任者之ニ署名

スベシ

第三條 本程式施行後ハ從前各機關ニ於テ使用セ
ル公文用紙樣式、標點及符號ハ之ヲ廢止ス

第四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

REEL No. A-0708

政府公報暫行條例

民國二十七年五月二日(公布)

- 第一條 政府ニ於テ公布スベキ法律、命令及公布ヲ要スベキ文件(法案)ノ發表ハ政府公報ニ依リ之ヲ刊行ス
- 第二條 政府公報編輯ノ種類左ノ如シ
 - 一 命令
 - 二 法規(凡ソ法律、條例、章程及各項單項法規等ハ均シク之ニ屬ス)
 - 三 公牘(凡ソ訓令、指令、呈批公函公電、布告ハ均シク之ニ屬ス)
 - 四 附錄雜件
- 第三條 政府公報ニハ廣告欄ヲ附設スルコトヲ得其ノ收費辦法ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 各機關ニ於テ法規、章程、電文等ノ項ヲ引用スル場合ハ政府公報ヲ以テ公布セルモノニ依據スベシ

一一六

- 第五條 政府公報ハ當分ノ間每週一回之ヲ發行ス
- 第六條 政府公報ノ編輯、刊印、發行等ノ事務ハ總テ行政院印鑄局之ヲ辦理ス
- 第七條 各機關ニ於テ公布ヲ行フ文件ハ一括シテ之ヲ印鑄局ニ送付シ政府公報ニ登刊ス其ノ原件ニ過誤アルトキハ原機關其ノ責ニ任ズ
- 第八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

司法公報暫行規則

民國二十七年十二月二十三日司法行政部令

- 第一條 司法公報ハ司法行政部秘書處之ヲ編輯印刷シ當分ノ間司法行政部總務司第四科之ヲ發行ス
- 第二條 司法公報ハ月報トス但シ必要アルトキハ臨時増刊ヲ出スコトヲ得
- 第三條 司法公報ニハ左ニ列記ノ事項ヲ登載ス
 - 甲 命令
 - 一 維新政府命令(司法行政及法律ニ關係アルモノ)
 - 二 司法行政部命令
 - 三 其ノ他ノ機關ノ命令(司法行政及法律ニ關係アルモノ)
 - 乙 法規
 - 一 維新政府ノ公布シタルモノ
 - 二 司法行政部ノ公布シタルモノ
 - 三 司法行政部所屬各機關ノ單行法規ニシテ部ニ

上呈シ當分施行セラレタルモノ

- 丙 公文
 - 一 維新政府公文(司法行政及法律ニ關係アルモノ)
 - 二 司法行政部公文
 - 三 其ノ他ノ機關ノ公文(司法行政及法律ニ關係アルモノ)
- 丁 法律ノ解釋
- 戊 訴訟裁判
- 己 事件
 - 一 各種統計報告表及圖式
 - 二 司法行政ニ關スル計劃案及法律案
 - 三 司法行政及法律ニ關スル重要著作翻譯文件
- 庚 附錄
 - 一 世界的大事件ノ記錄
 - 二 司法行政ニ關スル宣傳文件
- 第四條 公報ニ登載スベキ事項ハ發表濟ノモノニシテ秘密ニ亘ラザルコトヲ要ス

一一七

REEL No. A-0708

- 第五條 公報ニ登載スベキ文件ハ各處ノ司科其ノ原稿(登公報)ト捺印シ其旨記載シ之ヲ校正人ニ引渡スベシ校正人ハ直ニ之ヲ校正秘書處ニ送付シ秘書處規定ニ照ラシ之ヲ登載スベシ此ノ場合ニ於テ直接原稿ヲ送付スルコトヲ得ズ
- 前項ノ登載文件ノ外別ニ登載スベキ文件アリ秘書處ノ指示ヲ經テ謄寫ノ上送付ヲ請フ者アルトキハ各處ノ司科ハ前項ニ從ヒ處理スベシ
- 第六條 前條後段ノ文件ニハ夫々種類散發年月日及番號ヲ明記スベシ本件ニ附シテ登載スル文件亦同シ
- 第七條 送付ノ文件ハ毎月二十日迄秘書處ニ之ヲ送付スベシ
- 第八條 法規長文ニ且ルトキハ別ニ特別號ヲ出シ又ハ分割シテ之ヲ連續登載ス
- 第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各縣政概況報告表

民國二十七年九月二日內政部令

- 一 表式計三枚ハ各縣ノ縣政處理概況報告ノ爲ニ之ヲ用フ
- 二 表紙ノ長短寸法ハ集錄ニ便セシムル爲ニ今次發表ノ様式ニ依リ之ヲ作成スベシ
- 三 各縣ハ表式ニ依リ五部ヲ作製ノ上一部ヲ所轄道尹公署ニ呈送シ其ノ他ノ四部ハ民政廳ニ呈送スベシ
- 四 民政廳ハ送呈セラレタル表ヲ以テ合本四ヲ作り中一本ハ廳ニ於テ之ヲ保管シ他ノ二本ハ之ヲ省政府ニ送付スベシ省政府ハ中一本ヲ保管シ他ノ二本ハ內政部ヲシテ之ヲ保管セシムベシ
- 五 各縣ノ報告表ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ作成送付スベシ
 - (一)各縣公署ハ組織成立ト共ニ縣公署組織概況報告表ヲ作成送付スベシ
 - (二)各縣公署ハ各縣行政經費概算ノ裁定ヲ經タル後

- 縣行政經費概況報告表ヲ作成送付スベシ
- (三)各縣公署ハ現在ノ施政概況ニ付縣施政概況報告表ヲ作成送付スベシ
- (四)各縣公署ハ毎月縣行政主要實施月報表五部ヲ作成シ主要實施政務ニ付豫定計畫及實施情況ヲ記載スベシ該表ハ次月十日迄ニ中一部ヲ所轄道尹公署ニ中四部ヲ民政廳ニ送付スベシ民政廳ハ之ヲ集錄轉送スベシ

第五編 警察、衛生

REEL No. A-0708

0405

修正懲罰法

修正懲罰法

民國二十七年八月二十日

第一章 總則

第一條 本法ハ本法施行後ニ違背アル場合ニ之ヲ適用ス

第二條 本法及其ノ他法令又ハ法令ノ認ムル警察章程ノ正條ニ依ルニ非ザレバ如何ナル種類ノ行爲ト雖モ之ヲ處罰スルコトヲ得ズ

第三條 十四才未滿ノ違背者ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ父兄又ハ養育人ニ告知シ責任ヲ以テ之ヲ監視セシム

第四條 前項ノ違背者ニシテ其ノ父兄又ハ養育人ヲ調査スルモ知ルニ由ナキトキハ其ノ年齢ニ依リ感化教育ヲ施シ又ハ養育院ニ送り教育スルコトヲ得

第五條 心神喪失ニ依ル違背ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ父兄又ハ監護人ニ告知シ責任ヲ以テ之ヲ監視セシム

前項ノ違背者ニシテ其ノ父兄又ハ監護人ヲ調査スルモ知ルニ由ナキトキハ事情ヲ酌量シ適當ナル病院又ハ場所ニ送付シ監護ヲ爲スコトヲ得

第六條 自己又ハ他人ノ緊急危難ヲ救護スル爲已ムコトヲ得ザル行爲ニ出テ違背ヲ爲シタル者ハ之ヲ罰セズ但シ其ノ行爲當テ過グルトキハ本刑ノ四分ノ一又ハ二分ノ一ヲ減ジテ處罰スルコトヲ得

第七條 凡ソ人力又ハ自然力ノ迫害ヲ受ケ拒抗スル力ナク違背ヲ爲シタル者ハ之ヲ罰セズ

第八條 違背ノ未遂ハ之ヲ罰セズ

第九條 同一管轄地方ニ在リテ再犯ノ罪ヲ犯シタル者ハ本刑ノ四分ノ一ヲ加重シ之ヲ處罰ス三犯以上ノ罪ヲ犯シタル者ハ本刑ノ二分ノ一ヲ加重シ之ヲ處罰ス

第十條 第三條第一項及第四條第一項ノ違背者ガ其ノ父兄又ハ養育人又ハ監護人ニ告知シタル後六月以内ニ同一管轄地方ニ在リテ再犯ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ父兄又ハ監護人又ハ監護人ヲ處罰スルコトヲ得

REEL No. A-0708

0486

前項ノ規定ニ依ル處罰ハ罰金ヲ以テ限度トス
第九條 違警行為ガ本法ニ掲グル行為ノ二以上ニ
添ルトキハ之ヲ各別ニ處罰ス
第十條 二人以上共同シテ違警行為ヲ爲シタル者
ハ總テ正犯トシ各別ニ其ノ刑ヲ科シ正犯ヲ幫助シタ
ル者ハ從犯トシ本刑ノ四分ノ一ヲ減ジテ處罰スルコ
トヲ得
第十一條 他人ヲ教唆シテ違警行為ヲ爲サシメタル
者ハ教唆犯トシ正犯ニ準ジテ處罰シタルモノ
ハ教唆犯ニ準ジテ處罰ス
第十二條 從犯ヲ教唆又ハ幫助シタル者ハ從犯ニ準
ジテ處罰ス
第十三條 違警ノ刑ハ主刑及從刑トス
主刑ノ種類左ノ如シ
一 拘留 十五日以下一日以上
二 罰金 十五元以下拾錢以上
三 訓誡
從刑ノ種類左ノ如シ
一 沒收
二 營業停止
三 強制休業
第十四條 拘留ハ判定後警察機關ニ於テ之ヲ拘留ス
第十五條 違警事件ハ即時之ヲ判定スベシ但シ確實
ニ調査繼續ノ必要アルトキハ保釋又ハ其ノ家族ニ責
付スベシ
實付ヲ受ケタル者ヨリハ證據ヲ提出セシムベシ
第十六條 罰金ハ判定後五日以内ニ之ヲ完納スベシ
若シ納期ヲ逾ヘ完納ヲ肯ゼズ又ハ完納ノ力ナキ者ハ
一元ヲ拘留一日ニ換算シテ之ヲ科シ其ノ一元ニ滿タ
ザル場合ハ一日ニ計算ス
前項ノ規定ニ依リ拘留ニ改メ處罰ヲ受ケタル後罰金
ノ完納ヲ欲スル場合ニ於テハ已ニ拘留セル日數ヲ扣
除ノ上之ヲ計算ス
第十七條 沒收スベキ物件左ノ如シ
一 違警ニ供シタル物
二 違警ニ因リ取得シタル物

沒收スベキ物件ハ違警者以外ニ權利者ナキ物ニ限
ル
第十八條 營業ノ停止ハ其ノ期間十日以内トス
第十九條 強制休業ハ同一違警行為ノ累犯者ニ之ヲ
適用ス
第二十條 違警行為ニ因リ物品ヲ損壞又ハ滅失シタ
ル者ハ本法ニ依リ處罰ヲ行フノ外事情ヲ斟酌シテ賠償
セシムルコトヲ得
第二十一條 違警行為ノ發覺前警察機關ニ自首シタル
者ハ本刑ノ四分ノ一若ハ二分ノ一ヲ減ジテ處罰シ又
ハ訓誡ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得但シ本法ニ別段ノ
規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ被害者ニ對シテ首服
シ警察機關ヲ經テ審訊セラルル者亦同ジ
第二十二條 違警者ノ素行、心情其ノ他ノ狀況ヲ審査
シ本刑ノ四分ノ一又ハ二分ノ一ヲ酌量加重又ハ輕減
シテ處罰スルコトヲ得
第二十三條 第九條ノ規定ニ依リ處罰スル者ノ拘留期
間ハ三十日ヲ逾ヘ罰金ハ三十元ヲ逾エルコトヲ得ズ
第二十四條 罰金ノ加減ニ因リ拘留一日ニ滿タズ罰金
十錢ニ滿タザル場合ハ之ヲ免除スルコトヲ得
第二十五條 本法ニ於テ釋スル以下又ハ以上ハ俱ニ本
數ヲ包含シテ計算ス
第二十六條 拘留ノ處罰ヲ受ケ拘留期間半ヲ過キ確實
ニ悔悟ノ情アル者ハ之ヲ釋放スルコトヲ得
第二十七條 違警ノ現行犯ハ警察員ハ召喚狀ヲ所持セ
ザル場合ト雖モ直ニ拘留スルコトヲ得但シ違警者重
要事務ヲ有シ確實ニ其ノ住所氏名列明シ又逃亡ノ虞
ナキ者ハ此ノ限ニ在ラズ
第二十八條 違警ノ嫌疑ニ因リ警察ノ拘引審問ヲ受ケ
ベキ者ハ召喚狀到着ノ日ヨリ三日以内ニ出頭スベシ
若シ期日ヲ逾ヘ出頭セザルトキハ直ニ判定ヲ行ヒ法
ニ依リ處罰スルコトヲ得
第二十九條 違警事件ノ起訴、告訴又ハ告發ノ期間ハ
違警行為完了シタル日ヨリ六月トス
本法ニ依リ處罰ヲ受ケル者判定ノ日ヨリ滿六月ヲ經

ルモ未だ處罰ヲ執行セラレザルトキハ之ヲ免除ス
 第三十條 期間ハ二十四時内ヲ以テ一日トシ三十日
 ヲ以テ一月トス
 第三十一條 期間ノ初日ハ時刻ヲ計算セズ一日ヲ以テ
 論ジ最終日ハ全一日ヲ開スルコトヲ要ス
 第三十二條 拘留者ノ釋放ハ期間満了ノ日ノ翌日ノ午
 前ニ之ヲ行フ
 第二章 安寧ヲ妨害スル違背罰
 第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル
 者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス
 一 官廳ノ許可ナクシテ花火ノ製造又ハ販賣ヲ爲シ
 タル者
 二 人口稠密ノ場所ニ於テ花火ヲ打上ゲ又ハ火器ヲ
 弄シタル者
 三 火藥及爆發物ヲ發見シタルモ之ヲ警察機關ニ報
 告セザル者
 四 無防火家屋内ニ燃焼シ易キ物ヲ貯藏シタル者
 五 官廳ノ許可ナクシテ凶器ヲ攜帶シタル者
 六 詭言ヲ流布シタル者
 七 人家ノ附近又ハ山林田野ニ於テ遊ニ焚火ヲ爲シ
 タル者
 八 水火又ハ一切ノ災變ニ際シ官廳ヨリ其ノ防護救
 助ノ命令ヲ受ケルモ抗シテ服從セザル者
 九 狂人、狂犬又ハ一切ノ危險ナル獸類ヲ放任シテ
 路上ヲ疾走セシメ又ハ人家、邸宅其ノ他ノ建築
 物内ニ入ラシメタル者
 第三章 秩序ヲ妨害スル違背罰
 第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル
 者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス
 一 法令規則ニ違反シテ商工業ヲ營ミタル者
 二 法令規則ニ違反シテ劇場又ハ各種ノ遊覽場ヲ開
 設シタル者
 三 旅館ニシテ確實ニ投宿人利法上重大犯罪行為ア
 ルヲ知ルモ之ヲ警察機關ニ密報セザル者
 第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル
 者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

一三四

一 婚姻、出生、死亡又ハ移轉シタル場合ニ於テ法
 令規則ニ依リ警察機關ニ之ヲ報告セザル者
 二 該所轄機關ニ許可ノ出願ヲ爲サズ擅ニ工事ヲ興
 シ又ハ官廳所定ノ圖面ニ違反シタル者
 三 旅館、會館其ノ他ノ宿泊ニ供スル場所ニテ投
 宿人ノ氏名、年齢、原籍、住所、職業及往復地
 方ノ記載ヲ爲サザル者
 四 多集會合シ警察機關問スルモ事實ヲ陳述セズ
 又ハ其ノ解散ヲ命ズルモ解散セザル者
 五 變死者又ハ來歴不明ノ屍體ヲ發見スルモ官廳ニ
 報告シ驗死ヲ經ズシテ私ニ埋葬又ハ他處ニ移轉
 シタル者
 六 旅館其ノ他ノ寄宿ニ供スル場所ニシテ六月以
 内ニ同一管轄地方ニ於テ前項第三號ノ規定ニ違
 反スルコト三回以上ニ渉ル者ハ強制廢業セシム
 ルコトヲ得
 第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル
 者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
 一 私有地界外ニ家屋、塀、小屋等ノ類ヲ建築シタ
 ル者
 二 家屋又ハ一切ノ建築物ノ狀態將ニ傾倒セントシ
 官廳ニ於テ修理又ハ破壊ヲ督促スルモ遲延シテ
 履行セザル者
 三 路傍ノ植木、踏燈又ハ公設物ヲ毀損シタル者
 四 學校、博物館、圖書館及一切ノ展覽會場其ノ他
 人ノ居住ニ供スル場所ニ於テ乘ヲ聚メ喧嘩シ禁
 止セララルルモ之ニ從ハザル者
 五 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ濫リニ警笛ヲ吹キタ
 ル者
 六 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ高聲放歌シテ禁止セ
 ララルルモ之ニ從ハザル者
 七 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ泥酔シ喧嘩ニ涉リ又
 ハ醉臥シタル者
 八 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ口論紛争シ禁止セラ
 ルルモ之ニ從ハザル者

一三五

REEL No. A-0708

九 人ノ居住セザル家屋内ニ潛伏シタル者
十 出入禁止ノ場所ニ濫ニ出入シタル者
十一 深夜故ナク喧嘩ニ渉ル行爲ヲ爲シ又ハ高聲ニ樂器ヲ奏シ騒々シキ者
十二 口實ヲ設ケテ隣々商店其ノ他營業ノ場所ヲ擾亂シタル者
十三 官廳ニ於テ價格ヲ定メタル物ヲ値上シテ販賣シタル者
十四 凡ソ人夫、傭工、車馬等ニシテ豫メ賃額額ヲ定メラレタル後ニ於テ増給ヲ強要シ又ハ豫メ定メザルモ後ニ至リ價例ニ依ル最高額以上ヲ要求シ若ハ中途ニテ離解ヲ付ケタルモノ
前項第十三號及第十四號ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ値上ニ依リ得タル金額ハ之ヲ沒收ス
六月以内ニ同一管轄地方ニ於テ第一項第十三號及第十四號ノ規定ニ違反スルコト二回以上ニ渉ル者ハ停業ヲ命ズルコトヲ得三回ニ渉ル者ハ情状ヲ斟酌ノ上休業ヲ強制スルコトヲ得

第三十七條 茶屋、酒場其ノ他遊覽ノ場所ノ主人又ハ支配人ニシテ警察機關所定ノ時間外ニ客ノ逗留ヲ許ス者ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
六月以内ニ同一管轄地域内ニ於テ前項ノ違反ヲ爲スコト二回以上ニ渉ル者ハ停業ヲ命ズルコトヲ得三回以上ニ渉ル者ハ事情ヲ酌量ノ上休業ヲ強制スルコトヲ得
第三十八條 警察機關所定ノ時間外ニ茶屋、酒場其ノ他ノ遊藝場ニ逗留シ警察官吏又ハ店舖ノ主人若ハ支配人ノ退去勸告ヲ聽カザル者ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
第四條 公務ヲ妨害スル違警罰
第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 私有地域内ノ通行ニ供スル場所ニ井戸又ハ穴等有ル場合ニ於テ之ニ覆蓋又ハ防圍ヲ設ケザル者
二 公衆會合ノ場所又ハ灣曲セル小道ニ於テ車馬ヲ馳走セシメ又ハ路上ニ於テ競争ヲ爲シ阻止セラシムルモノ之ヲ聽カザル者
三 各種ノ車輛規定ニ依リ設置シタル信號器ニ違反スル者又ハ規定ニ依リ設置シタル人ノ揭示ニ違反シタル者
四 官廳ノ許可ヲ經ズシテ路旁河岸等ニ店舗ヲ開設シタル者
五 道路橋梁ノ表札類ヲ毀損シ又ハ一切ノ通行禁止者ハ道路指針ノ標識類ヲ毀損シタル者
六 渡船橋梁等ニシテ一定ノ通行費ノ定メ有ルモ定額以上ニ徵集ヲ行ヒ又ハ故意ニ通行ヲ阻止シタル者
前項第六號ノ餘分ニ徵集シタル金額ハ之ヲ沒收ス

第五條 誹謗、偽證及證據湮滅ノ違警罰
第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
一 他人ノ違警ヲ誹謗シ又ハ偽證ヲ爲シタル者
二 違警者ヲ曲庇スル爲故意ニ其ノ證據ヲ湮滅シ又ハ偽證ヲ爲シタル者
三 違警者ヲ隠匿シ又ハ之ヲ逃走セシメタル者
前項第一號及第二號ノ規定ニ違反シタル者ニシテ本件ノ判定前ニ自首シタル者ハ其ノ刑ヲ免除ス第二號及第三號ノ規定ニ違反シタル者犯人ノ親屬ナル場合ニ付亦同シ
第六章 交通ヲ妨害スル違警罰
第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 郵便物又ハ電報ノ運送ヲ妨害スルモ情状ノ輕微ナル者
二 郵便專用物ヲ破損スルモ情状ノ輕微ナル者
三 電報電話ノ交通ヲ妨害スルモ情状ノ輕微ナル者

第四十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス
一 私有地域内ノ通行ニ供スル場所ニ井戸又ハ穴等有ル場合ニ於テ之ニ覆蓋又ハ防圍ヲ設ケザル者
二 公衆會合ノ場所又ハ灣曲セル小道ニ於テ車馬ヲ馳走セシメ又ハ路上ニ於テ競争ヲ爲シ阻止セラシムルモノ之ヲ聽カザル者
三 各種ノ車輛規定ニ依リ設置シタル信號器ニ違反スル者又ハ規定ニ依リ設置シタル人ノ揭示ニ違反シタル者
四 官廳ノ許可ヲ經ズシテ路旁河岸等ニ店舗ヲ開設シタル者
五 道路橋梁ノ表札類ヲ毀損シ又ハ一切ノ通行禁止者ハ道路指針ノ標識類ヲ毀損シタル者
六 渡船橋梁等ニシテ一定ノ通行費ノ定メ有ルモ定額以上ニ徵集ヲ行ヒ又ハ故意ニ通行ヲ阻止シタル者
前項第六號ノ餘分ニ徵集シタル金額ハ之ヲ沒收ス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ五元以上ノ罰金ニ處ス
 一 渡船橋梁等ニシテ通行費ヲ支拂フベキ處ニ於テ定額ヲ支拂ハズ強ヒテ通行シタル者
 二 路旁ニ商品、玩具又ハ食物等ノ類ヲ羅列シ阻止セラルルモ之ヲ離カザル者
 三 濫ニ從テ繫帯橋梁堤防ヲ損壞セシメタル者
 四 濫ニ路上ニ車馬ヲ置キ又ハ木石、薪炭其ノ他ノ物品ヲ堆積シ行人ヲ妨礙シタル者
 五 河流ニ於テ恣ニ舟筏ヲ並べ又ハ木石雜物ヲ抛擲シタル者
 六 道路ニ於テ馬ニ溜飲セシメ又ハ牽繫ヲ疎ニシテ行人ヲ妨礙シタル者
 七 車馬ヲ並行セシメ人ノ妨礙ヲ爲シタル者
 八 水路ヲ並航シテ通船ヲ妨礙シタル者
 九 冰雪、塵芥、瓦礫、穢物等ノ類ヲ道路ニ投棄シタル者
 十 道路ニ於テ遊戯ヲ禁止セラルルモ聽カザル者

一三八

十一 官廳ノ督促ヲ受ケルモ道路ヲ掃除セザル者
 十二 舟車ノ夜行ニ燈火ヲ點セズ又ハ裝備セル燈火ノ使用他人ノ行禮視線ヲ妨礙シタル者
 十三 路燈ヲ消滅シタル者
 十四 通行禁止ノ標示アル處ヲ擅ニ通行シタル者
 十五 車ノ速力路局ノ規定シタル規則ニ違反シタル者
 十六 交通總局ノ指揮ニ從ハズシテ車ヲ運轉シタル者
 十七 路軌ニ從ハズシテ車輛ヲ運轉シ又ハ規定ノ路線外ニ停車シ置キタル者
 第七章 風俗ヲ妨害スル違罰則
 第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十五元以下ノ拘留又ハ八十五元以下ノ罰金ニ處ス
 一 遊蕩無賴ニシテ行跡ノ不良ナル者
 二 猥褻物ヲ人ノ身體ニ加ヘタル者
 三 勸進僧侶又ハ流民乞食ニシテ金錢物品ヲ強要シ

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ八十元以下ノ罰金ニ處ス
 一 祠及一切ノ公共營造物ヲ汚損スルモ情狀輕キ者
 二 他人ノ墓碑ヲ汚損シタル者
 三 乘人ノ面前ニテ人ヲ罵リ嘲弄シタル者
 四 道路ニ於テ叫罵シ禁止ヲ聽カザル者
 五 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ赤身裸體ト爲リ又ハ放蕩ノ姿勢ヲ爲シタル者
 六 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ猥褻ノ言語舉動ヲ爲シタル者
 第八章 衛生ヲ妨害スル違罰則

一三九

第四十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ八十五元以下ノ罰金ニ處ス
 一 宣聲ノ許可ヲ得テ毒質含有ノ藥物ヲ販賣スルモ情狀ノ輕微ナル者
 二 人口稠密ノ場所ニ於テ人糞ヲ乾燥セシメ肥料ヲ製造スル工場ヲ開設シタル者
 三 人口稠密ノ場所ニ於テ一切ノ臭氣ヲ發スル物品ヲ晒シ又ハ糞ヲ禁止セラルルモ之ヲ聽カザル者
 四 春藥、胎毒藥ヲ販賣シメハ之等ノ廣告ヲ散布シタル者
 五 符呪邪術ヲ以テ疾病ヲ治療スル者
 六 月以内ニ同一管轄地方ニ於テ前項第一號ノ規定ニ違反スルコト二回以上ニ涉ル者ハ之ヲ停業セシメ三回以上ニ涉ル者ハ休業ヲ強制スルコトヲ得
 第四十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル

者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

一 腐敗セル食物ヲ販賣シタル者

二 蓋ヲ爲スベキ飲食物ニ蓋ヲ爲サズ陳列販賣シタル者

三 衛生上有害ナル物質ヲ飲食物内ニ混入販賣シ不正ノ利益ヲ得タル者

四 真正ノ藥品ニ非ザル物ヲ販賣シタル者

五 深夜人ノ危急ニ違フモ拒絶シテ藥ヲ賣ラザリシ者

第四十八條 許可ヲ經テ看板ヲ懸ケ施術スル醫師、醫士又ハ助産婦ニシテ故ナク招聘ニ應ゼザル者ハ十元以下ノ罰金ニ處ス招聘ニ應ズルモ故ナク遅延シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ五元以下ノ罰金ニ處ス

一 下水道ヲ毀損シ又ハ官廳ノ督促ヲ受クルモ洩染セザル者

二 糞土穢物ヲ入レ街路ヲ通過スル場合ニ蓋ヲ爲サ

ズ又ハ濫ニ停留シタル者

三 商業繁華市街地ニ於テ濫ニ糞船ヲ停泊セシメタル者

四 穢物又ハ禽獸ノ骨骸ヲ人衆又ハ舟車ニ投入シタル者

五 道路又ハ公共ノ場所ニ於テ大小便ヲ爲シタル者

六 河岸路傍ニ濫ニ便所ヲ設ケ又ハ穢物ヲ堆積シタル者

七 人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シタル者

第九章 他人ノ身體財産ヲ妨害スル違警罰

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十五元以下ノ罰金ニ處ス

一 人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ人ノ身體ヲ汚穢スルモ未ダ傷害ヲ與フルニ至ラザル者

二 不正ノ目的ヲ以テ催眠術ヲ施シタル者

第五十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ所有ニ係ル牛馬及一切ノ動物ヲ解放シタ

一四〇

ル者

二 蒸氣、電氣若ハ瓦斯ヲ逸漏セシメ又ハ遮斷スルモ未ダ公共ノ危險ヲ生ズルニ至ラザル者

三 他人ノ警留スル舟筏ヲ解放シ未ダ漂失スルニ至ラザル者

四 貸借又ハ賣買ヲ強制シタル者

第五十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ハ五日以下ノ拘留又ハ五元以下ノ罰金ニ處ス

一 故ナク人ニ面會ヲ強要シ又ハ他人ノ身邊ニ追隨シ阻止スルモ隠カザル者

二 故ナク邸宅ノ表札、店舗ノ看板又ハ一切ノ合理的廣告ヲ毀損シタル者

三 濫ニ人家ノ扉若ハ建築物ニ紙類ヲ貼リ又ハ塗繪ヲ書キタル者

四 他人ノ地所内ニ於テ私ニ土塊石塊ヲ掘リタルモ情狀輕微ナル者

五 他人ノ樹木、草花、野菜又ハ果物ヲ折り取りタル者

六 他人ノ田圃ニ踏入り又ハ牛馬ヲ牽キ入レタル者

附 則

第五十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一四一

治安警察暫行條例

民國二十七年十一月五日

- 第一條 行政官署ハ公共ノ安寧秩序ヲ維持シ及人...

一四二

- 加入スルコトヲ得ズ...

- 一 會場...

二 年月日時

- 三 經過スベキ路線...

一四三

第十四條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニシテ
議事準備ノタメ相關結スル場合ハ第二條ノ規定ヲ適
用セズ
第十五條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準
備ノ目的ヲ以テ選舉權及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ
會同セシムル場合投票日前五日開ハ第六條ノ規定
ヲ適用セズ
第十六條 街頭共ノ他公衆ノ自由ニ往來スル場所ニ
於テ文書、圖畫ノ揭示頒布又ハ朗讀若ハ放吟等言語
ニ依ル形容共ノ他一切ノ作爲ニ依リ安寧秩序ヲ紊シ
又ハ風化ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ警察官吏之
ヲ禁止シ又ハ其ノ印寫物品ヲ差押フルコトヲ得
第十七條 警察官吏ハ勞動者ノ聚集ニシテ、同盟罷
業、工賃増加ノ強要又ハ勞動時間短縮ノ煽動ノ虞ア
リト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得
第十八條 第二條ニ違反シタル者ハ三十元以下ノ罰
金ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ四十元以下ノ罰
金ニ處ス

一四四
第十九條 第三條ニ違反シタル者ハ十五元以下ノ罰
金ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ二十元以下ノ罰
金ニ處ス
第二十條 第四條ニ違反シテ政治結社ニ加入シタル
者ハ二十元以下ノ罰金ニ處ス入社ノ紹介ヲナシタル
者亦同シ
第二十一條 第五條各號ノ規定ニ違反シテ第五條各號
ノ結社ヲ組織シ又ハ之ニ加入シタル者ハ一年以下ノ
徒刑ニ處ス
第二十二條 第六條ニ違反シタル者ハ二十元以下ノ罰
金ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ三十元以下ノ罰
金ニ處ス
第二十三條 第七條ノ中止又ハ解散ノ命ニ從ハザル者
ハ五月以下ノ徒刑又ハ五十元以上五十元以下ノ罰金ニ
處ス
第二十四條 第八條ニ違反シタル者ハ十元以下ノ罰金
ニ處シ不實ノ届出ヲナシタル者ハ十五元以下ノ罰金
ニ處ス

第二十五條 第九條ノ制限、禁止又ハ解散ノ命ニ從ハ
ザル者ハ二十日以下ノ拘役ニ處シ二十元以下ノ罰金
ヲ併科ス
第二十六條 第十條ノ詰問ニ答ヘズ又ハ不實ノ答ヲナ
シ又ハ第十一條ノ監視ヲ拒絕シタル者ハ三十元以下
ノ罰金ニ處ス
第二十七條 第十二條ニ違反シタル者ハ二十日以下ノ
拘役ニ處シ二十元以下ノ罰金ヲ併科ス
第二十八條 第十三條ノ退出ノ命ニ從ハザル者ハ十日
以下ノ拘役又ハ十元以下ノ罰金ニ處ス
第二十九條 第十六條ノ禁止又ハ差押ノ命ニ從ハザル
者ハ二十日以下ノ拘役ニ處シ二十元以下ノ罰金ヲ併
科ス
第三十條 第十七條ノ禁止ノ命ニ從ハザル者ハ五月
以下ノ徒刑又ハ五十元以上五十元以下ノ罰金ニ處ス
第三十一條 本條例ニ依リ拘役及十五元以下ノ罰金ヲ
科スル事件ハ主管警察官署ニ於テ之ヲ專行ス
第三十二條 本條例ニ關スル公訴ノ時效ハ六月トス

第三十三條 本條例ノ施行期間ハ六月トス
第三十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醫師暫行條例

民國二十七年十二月十五日

第一章 總綱

第一條 醫師法ノ公布セラザル以前ニ在リテハ醫師ノ營業許可又ハ取締ハ本條例ニ依リテ之ヲ行フ

第二章 資格

第一條 年齡二十五歳以上ニシテ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ醫師證書ヲ下付テ申請スルコトヲ得

一四六

門學校以上ヲ卒業シ卒業證書ヲ有スル者

外國政府ノ醫師證書ヲ有スル者

外國人ニシテ本國政府ノ醫師證書ヲ有シ外交館ノ證明アル者

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ資格ヲ有スルコトト雖醫師證書ヲ下付テ受ケルコトヲ得

一 三年以上ノ徒刑ニ處セラレタル者

二 禁治産者

三 心神喪失者

證書下付シタル後ニ右ノ事由發生シタルトキハ證書ヲ取消スベシ但シ第二號及第三號ノ事由消滅シタルトキハ再下付テ妨ケザルモノトス

第三章 證書受領手續

第一條 醫師證書ヲ下付テ受ケムトスル者ハ證書費五元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花費ヲ納付ス)及手札型半身寫眞二葉ニ履歷書一通ヲ添附シ卒業證書及資格證明書類ト共ニ所在地ノ主管官署

經由内政部ニ申請シテ之ヲ受ケベシ

前項ノ手續ハ衛生局ノ設アル地方ニアリテハ衛生局ニ於テ主管機關ニ提出シ衛生局ノ設ナキ地方ニマリテハ警察機關ニ於テ主管機關ニ提出シ衛生局及警察機關ノ設ケナキ地方ニ在リテハ其ノ他ノ行政官署ニ於テ主管機關ニ提出シ各主管機關ハ毎月一括シテ之ヲ内政部ニ報告ス

外國籍ノ醫師ニシテ醫師證書ヲ下付テ受ケムトスルトキハ卒業證書及資格證明書類ヲ最寄該國領事ニ送付シテ審査ヲ受ケ證明書ヲ發給テ受ケタル後本條ノ手續ヲ履ムベシ

第六條 破損遺失其ノ他ノ事由ニ因リ證書ヲ再下付テ受ケムトスルトキハ確實ナル證明書類ヲ提出スルノ外證書費二元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花費ヲ納付ス)ヲ納付スベシ

第七條 本條例施行前ニ於テ部ヨリ發行セル免狀ヲ有シ且第三條所定ノ資格ヲ有スルトキハ其ノ換證費二元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花費ヲ

納付ス)ヲ納付シテ新證書ヲ下付テ受ケルコトヲ得其ノ單ニ地方官署ニ登録シテ免狀ヲ受ケルモ未ダ部ノ免狀ヲ有セザル者ハ仍本條例第五條ノ規定ニ依リテ部ヨリ發行スル證書ヲ受ケルコトヲ要ス

第八條 本條例施行後醫師ヲ開業スルモノ部ノ發行スル證書ヲ有セザルトキハ主管官署ニ於テ期限ヲ定メ證書下付ノ申請ヲ爲サシムベシ

前項ノ開業醫師ニシテ命令ニ從ヒ部發行證書ノ下付ノ申請ヲ爲シタルモ未ダ其ノ下付テ受ケザル以前ニ於テハ該管官署ハ臨時證書ヲ發給シ其ノ營業ノ繼續ヲ許可スルコトヲ得

第四章 業務

第九條 醫師開業セムトスルトキハ部ヨリ下付テ受ケタル證書ヲ主管官署ニ提出シテ検査ヲ受ケ登録ヲ請求スルコトヲ要ス

第十條 醫師ノ開業、廢業、復業又ハ移轉死亡等ノ事項ハ十日以内ニ本人又ハ其ノ關係人ニ於テ主管官署ニ報告スベシ

一四七

第十一條 醫師ハ自ら診察スルニ非ザレバ治療ヲ施シ又ハ處方箋ヲ給與シ又ハ診断書ヲ交付スルコトヲ得ズ其ノ自ラ屍體ヲ檢驗スルニ非ザレバ死亡診断書又ハ死産證明書ヲ交付スルコトヲ得ズ
 第十二條 醫師業務ヲ行ハムトスルトキハ治療簿ヲ備附ケ病人ノ姓名、住所、年齢、性別、職業、病名、病歴(既往症)及其ノ治療法ヲ記載スベシ
 第十三條 醫師ノ處方箋ニハ左ノ事項ヲ明記スベシ
 一 自己ノ姓名、住所、證書、登録番號及署名又ハ捺印
 二 病人ノ姓名、年齢、藥名、藥量、用法及年月日
 第十四條 醫師ノ診察セル病人ニ對シ藥劑ヲ交付スルトキハ容器又ハ包装上ニ用法、病人ノ姓名、自己ノ姓名及診療所ヲ逐一明瞭ニ記入スベシ
 第十五條 醫師ガ傳染病者ヲ診断シ又ハ其ノ死體ヲ檢視シタルトキハ消毒方法ヲ指示シ主管官署ニ報告スベシ
 第十六條 醫師ガ屍體又ハ死産兒ヲ検査シ犯罪ノ嫌疑アリト認めタルトキハ二十四時間以内ニ主管官署ニ報告スベシ
 第十七條 醫師ハ正當ナル理由アル場合ヲ除クノ外診察書、検査書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒絕スルコトヲ得ズ
 第十八條 醫師ハ其ノ業務ニ關シ虚偽又ハ誇張セル廣告ヲ登載若ハ頒布スルコトヲ得ズ
 第十九條 醫師ハ治療ニ關スル場合ノ外阿片、モルヒネ等ノ毒質藥品ヲ濫用スルコトヲ得ズ
 第二十條 醫師ハ裁判、公安又ハ疾病豫防等ノ必要ニ依リ主管法院、警察機關又ハ行政官署ノ委託ヲ受ケタルトキハ之ヲ協助スルノ義務ヲ負フモノトス
 第五章 懲戒
 第二十一條 醫師其ノ業務ニ關シ不正ノ行爲アリ又ハ精神ニ異狀アルトキハ主管官署ニ於テ地方醫師公會ヲシテ審議セシメタル後當時營業ヲ停止セシムベシ

第二十二條 本條例施行後未ダ部發行ノ證書ヲ有セズ又ハ之ヲ取消サレ又ハ營業ヲ停止セラレタル者ハ業務ヲ行フコトヲ得ズ之ニ違反スル者ハ五十元以上三百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得
 第二十三條 醫師取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ證書ヲ主管官署ニ返納スベシ其ノ單ニ營業停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送付シ同署ニ於テ營業停止理由及期限ヲ該證書裏面ニ記載シタル後之ヲ本人ニ返付シテ所持セシムベシ
 第二十四條 醫師本條例ノ規定ニ違反シタルトキハ各本條ニ規定セル制裁ノ外主管官署ニ於テ五十元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得其ノ業務ニ因リテ刑法ニ觸レタルトキハ法院ニ送致スベシ
 第二十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

藥劑師暫行條例

民國二十七年十二月十五日

- 第一章 總則
 - 第一條 藥劑師法ノ公布セラレザル以前ニ在リテハ藥劑師ノ許可及取締ニ關シテハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ行フ
 - 第二條 藥劑師ノ資格ヲ有スル者ハ内政部ニ於テ審査ノ上藥劑師證書ヲ下付ス未ダ證書ノ下付ヲ受ケザル者ハ業務ヲ行フコトヲ得ズ
 - 藥劑師ハ醫師ノ處方箋ニ依リ調劑ヲ爲スノ外藥品ヲ製造、販賣又ハ管理スルコトヲ得
- 第二章 資格
 - 第三條 年齡二十五歲以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ藥劑師證書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得
 - 一 國立又ハ政府認可ノ公立、私立專門學校以上ノ藥學科ヲ卒業シ卒業證書ヲ有スル者
 - 二 外國ノ官立又ハ政府認可ノ私立專門學校以上ノ藥學科ヲ卒業シ卒業證書ヲ有スル者
- 第三章 證書受領手續
 - 第一 三年以上ノ徒刑ニ處セラレタル者
 - 二 禁治產者
 - 三 心神喪失者
 - 證書ヲ下付シタル後ニ右ノ事由發生シタルトキハ隨時證書ヲ取消スベシ但シ第二號及第三號ノ事由消滅シタルトキハ再下付ヲ妨ゲザルモノトス
- 第四條 證書受領手續
 - 一 三年以上ノ徒刑ニ處セラレタル者
 - 二 禁治產者
 - 三 心神喪失者
 - 證書ヲ下付シタル後ニ右ノ事由發生シタルトキハ隨時證書ヲ取消スベシ但シ第二號及第三號ノ事由消滅シタルトキハ再下付ヲ妨ゲザルモノトス
- 第五條 藥劑師證書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ證書費五元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)及手札對半身寫眞二葉ニ履歷書一通ヲ添

一五〇

- へ卒業證書及資格證明書類ト共ニ所在地ノ主管官署經由内政部ニ申請シ之ヲ受クベシ
- 前項ノ手續ハ衛生局ノ設アル地方ニ在リテハ衛生局ヨリ主管機關ニ提出シ衛生局ノ設ナキ地方ニ在リテハ警察機關ヨリ主管機關ニ提出シ衛生局及警察機關ノ設ナキ地方ニ在リテハ其ノ他ノ行政官署ヨリ主管機關ニ提出シ主管機關ハ毎月一括シテ之内政部ニ報告ス
- 第六條 破損遺失其ノ他ノ事由ニ因リ證書ノ再下付ヲ受ケムトスルトキハ確實ナル證明書類ヲ提出スルノ外證書費二元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)ヲ納付スベシ
- 第七條 本條例施行前ニ部ノ免狀(執照)ヲ有シ且第三條所定ノ資格ヲ有スルトキハ換證書二元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)ヲ納付シテ新證書ノ下付ヲ受ケルコトヲ得其ノ單ニ地方官署ニ登録シテ免狀ヲ受ケ未ダ部ノ免狀ヲ有セザル者ハ仍本條例第五條ノ規定ニ依リテ部ヨリ發行スル
- 證書ヲ受ケルコトヲ要ス
- 第八條 本條例施行後藥劑師ヲ開業スルモ部ノ發行スル證書ヲ有セザルトキハ主管官署ニ於テ期限ヲ定メ證書下付ノ申請ヲ爲サシムベシ
- 前項ノ開業藥劑師ニシテ命令ニ從ヒ部ノ證書下付ヲ申請シタルモ未ダ其ノ下付ヲ受ケザル以前ニ於テハ主管官署ハ臨時證書ヲ發給シ其ノ業務ノ繼續ヲ許可スルコトヲ得
- 第四章 業務
 - 第九條 藥劑師開業セムトスルトキハ部發行ノ證書ヲ主管官署ニ提出シテ検査ヲ受ケ登録ヲ請求スルコトヲ要ス
 - 第十條 藥劑師ハ一人ニシテ二箇處以上ノ藥房ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ支店ヲ開設セムトスルトキハ別ニ藥劑師ヲ招聘シテ之ヲ擔任セシムルコトヲ要ス
 - 第十一條 藥劑師ハ晝夜中間ハズ故ナクシテ處方箋ノ調劑ヲ拒絕スルコトヲ得ズ
 - 第十二條 藥劑師處方箋ヲ接受シタルトキハ處方箋

一五一

ノ日附、患者ノ姓名、年齢、薬名、薬量、用法及醫師ノ署名又ハ捺印等ノ各項ニ注意スベシ疑ハシキ點アルトキハ其ノ醫師ニ質シタル後ニ非ザレバ調劑スルコトヲ得ズ

第十三條 調劑ハ処方箋ニ依ルコトヲ要ス藥品備ハラス又ハ缺乏シタルトキハ速ニ醫師ニ通知シテ其ノ變更ヲ請ヒ任意ニ省略シ又ハ他ノ藥品ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得ズ

第十四條 藥劑師ハ毒藥又ハ劇藥ヲ配伍スル處方箋ニ對シテハ醫師ノ通知アル場合ニ限り一回限り調劑スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ處方箋ハ藥劑師ニ於テ捺印シ調劑年月日ヲ記入シタル上三年間保存スルコトヲ要ス

第十五條 藥房ハ調劑簿ヲ備附ケ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 處方箋ニ所載セル各項
二 調劑年月日
三 調劑者ノ姓名

四 第十二條及第十三條ノ規定ニ依リ醫師ニ質シ又ハ變更ヲ請求シタル顛末
前項ノ調劑簿ハ三年間保存スベシ

第十六條 藥劑師ハ藥劑ノ容器上ニ左ノ事項ヲ明記スルコトヲ要ス

一 處方箋上ニ記載セル患者ノ姓名及藥ノ用法
二 藥房ノ所在地、名稱又ハ調劑者ノ姓名
三 調劑年月日

第十七條 藥劑師ノ開業、廢業、復業、移轉及死亡等ノ事項ハ十日以内ニ本人又ハ其ノ關係人ヨリ主管官署ニ報告スベシ

第五章 懲戒

第十八條 藥劑師業務ニ關シ不正ナル行為アリタルトキハ主管官署ニ於テ適宜期間ヲ定メ其ノ營業ヲ停止セシムルコトヲ得但シ一年ヲ過ユルコトヲ得ズ其ノ業務ニ因リテ刑法ニ抵觸シタルトキハ法院ニ送致シ且犯罪成立シタルトキハ直ニ藥劑師證書ヲ取消スモノトス

第十九條 藥劑師證書ノ取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ證書ヲ主管官署ニ返納スベシ營業停止處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送付シ同署ニ於テ營業停止理由及期間ヲ證書ノ裏面ニ記載シタル後本人ニ返付シテ所持セシムベシ

第二十條 部發行ノ證書ヲ受ケズ又ハ證書取消又ハ停業ノ處分ヲ受ケタルモ尙藥劑師ノ業務ヲ行ヒタル者ハ主管行政官署ニ於テ五十元以上三百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第二十一條 藥劑師ニシテ第四章ノ規定ニ違反シタル者ハ主管行政官署ニ於テ五十元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得第十九條ノ規定ニ違反シタル者亦同ジ

附則

第二十二條 第三條各款ノ資格ヲ具ヘザルモ醫院又ハ藥房ニ於テ三年以上調劑業務ヲ行ヒ内政部又ハ其ノ他委託機關ノ考査ニ合格シタル者ハ審査ノ上藥劑生免狀ヲ受ケルコトヲ得仍本條例施行前ニ部ノ發行セラル藥劑生免狀ヲ有スル者ニハ第七條ノ規定ヲ準用ス

藥劑生免狀ノ審査及下付ハ本條例施行ノ日ヨリ起算シ五年ヲ以テ限度トス

第二十三條 藥劑生ハ藥劑師ノ指定スル處方箋ヲ配合スルノ外自ラ毒藥品又ハ劇藥品ヲ製造シ又ハ處方箋以外ノ毒藥又ハ劇藥ヲ販賣スルコトヲ得ズ

本條例ノ藥劑師ニ關スル規定ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外藥劑生ニ之ヲ準用ス

第二十四條 醫師ハ自ラ藥劑ヲ調合シ以テ診療ノ用トナシ別ニ藥劑師證書ノ下付ヲ申請スルコトヲ要セズ但シ調劑義務及懲戒ニ關シテハ本條例ヲ適用ス

第二十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

助産士暫行條例

民國二十七年十二月十五日

- 第一條 助産士ヲラントスル者ハ内政部ノ認可ヲ經テ助産士證書ヲ受クルコトヲ要ス認可及證書ノ下付ヲ受ケル者ハ助産ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ本條例施行前ニ開業セル者ハ六月以内ニ本條例ノ規定ニ依リ助産士證書ノ下付ヲ申請スベシ
- 第二條 年齡二十歳以上ノ中華民國女子ニシテ左ノ資格ノ一ニ該當スル者ハ助産士證書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得
 - 一 部ノ認可セル本國助産學校、產科學校又ハ產科講習所ノ二年以上ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
 - 二 外國助産學校ニ於テ二年以上ヲ卒業シ證書ヲ有スル者
 - 三 本條例公布前部ノ發行シタル證書ヲ有スル者
 - 四 助産士考試ニ合格シ證書ヲ有スル者
 - 五 助産士證書ヲ有スル者
- 第三條 左ノ事由ノ一ニ該當スル者ニハ助産士證書ヲ下付スルコトヲ得ズ
 - 一 墮胎罪ヲ犯シタル者
 - 二 三年以内ノ徒刑ニ處セラレタル者
 - 三 禁治産者
 - 四 心神喪失者
- 第四條 證書下付後ニ右ノ事由ノ發生シタルトキハ證書ヲ取消スベシ但シ第二號乃至第四號ノ事由消滅シタルトキハ證書ノ再下付ヲ妨ケズ
- 第五條 助産士證書ノ下付ヲ申請セムトスル者ハ證書費四元(印花稅法公布後ハ其ノ規定ニ依リ印花稅ヲ納付ス)ト(部)ノ證書ヲ有スル者ハ證書費ヲ減スルコトヲ得(手札製半身寫眞二葉ニ履歷書ニ通テ添附卒業證書及其ノ他ノ資格證明書類ト共ニ所在地主管地方官署ニ提出シ民政廳又ハ特別市政府經由内政部ニ申請シテ審査ヲ受ケベシ)
- 第六條 遺失又ハ毀損其ノ事由ニ因リ證書ノ再下付ヲ受ケントスルトキハ確實ナル證明書類ヲ提出スルノ外證書費二元ヲ納付スベシ

一五四

- 第六條 助産士開業セムトスルトキハ部發行ノ證書ニ手札製半身寫眞二葉ヲ添ヘテ主管地方官署ニ登録ヲ申請スルコトヲ要ス登録認可ヲ經ザル以前ニ於テハ營業ヲ開始スルコトヲ得ズ
- 第七條 助産士ハ妊娠、產婦、褥婦、胎兒又ハ生兒ニ異狀アリト認メタルトキハ其ノ家族ニ告ゲテ醫師ヲ招キ診察セシムルコトヲ要シ自ら處理スルコトヲ得ズ、但シ緊急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第八條 助産士ハ妊娠、產婦、褥婦、胎兒又ハ生兒ニ對シ外科又ハ產科ノ手術ヲ施行スルコトヲ得ズ、但シ消毒、灌腸ノ施行及臍帶剪除ノ類ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第九條 助産士ハ出產簿ヲ備付ケ產婦ノ姓名、年齡、住所、出產回數、生兒性別、助産ノ經過及處置方法等ヲ詳細ニ記録シ且五年間保存スルコトヲ要ス

一五五

- 第十條 助産士ハ毎月十日以前ニ前月分ノ助産人數ヲ表ニ記入シ主管地方官署ニ報告シ地方官署ハ毎月之ヲ一括シテ民政廳又ハ特別市政府經由内政部ニ轉報スベシ
- 第十一條 助産士業務ニ關シ不正ナル行為又ハ重大ナル過失アリタルトキハ刑法ノ規定ニ依リ刑事處分ヲ受クルノ外地方官署ニ於テ證書ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得
- 第十二條 助産士モシテ本條例第三條第二項及第十條ニ依リ證書取消處分ヲ受ケタルトキハ三日以内ニ證書ヲ主管地方官署ニ返納スベシ營業停止ノ處分ヲ受ケタルトキハ證書ヲ主管官署ニ送致シ同署ニ於テ停止理由及期間ヲ該證書裏面ニ明記シタル上本人ニ返付シテ所持セシメ滿期ヲ待テ其ノ復業ヲ許可スベシ
- 第十三條 部發行ノ證書ヲ有セズ又ハ證書取消若ハ營業停止ノ處分ヲ受ケルモ尙助産ノ業務ヲ行ヒタルトキハ主管地方官署ニ於テ百元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六編 社會事業

REEL No. A-0708

0499

第六編 社會事業

地方救濟院規則

民國二十七年八月十六日內政部令

第一章 總則

第一條 各省區、特別市、道尹、縣市及自治會ハ戰後流滯者ヲ救濟シ自救能力ナキ老幼男女不具廢人ヲ救養シ意志薄弱ニシテ墮落セル失業遊民ヲ收容シ併セテ貧民ノ健康ノ保護及貧民ノ生計ノ扶助ノ爲ニ各省區、特別市、道尹、縣市及自治會所在地ニ於テ本規則ニ依リ救濟院ヲ設立ス各區縣等人口比較的多數ナル處ニモ亦情狀斟酌ノ上之ヲ設立スルコトヲ得

第二條 救濟院ハ左ノ各所ヲ分設スルモノトス

- 一 養老所
- 二 孤兒所
- 三 託兒所
- 四 救養所
- 五 習藝所
- 六 遊藝民收容所

七 育嬰所

八 不具者收容所

九 施療所

十 金融所

十一 救恤所

十二 救災所

各縣市及區縣救濟院ヲ設立スルトキハ前項ニ列舉セル各所ハ緩急ノ順序ニ從ヒ之ヲ設ケ又ハ其ノ地方ノ經濟狀態ヲ斟酌シ合併シテ設置スルコトヲ得

第三條 救濟院ニ院長一名ヲ置キ院務ヲ總理セシメ副院長一名ヲ置キ院長ヲ補佐セシム院長及副院長ハ各省區ニ於テハ民政廳、各特別市ニ於テハ市政府、各縣市及區縣ニ於テハ縣市政府ニ依リ當地ニ於ケル公正ナル人士審察ノ中ヨリ之ヲ選任スルモノトス

第四條 救濟院各所ニハ主任一名、事務員若干名ヲ置キ所、事務ヲ管理セシム主任及事務員ハ院長又ハ副院長ニ於テ之ヲ選任シ主管機關ニ申告ノ上之ヲ

登録ス

第五條 救濟院ハ各所ノ情勢ニ應ジ教員、醫師、看護婦及調査員ヲ選任シ保母及使丁若干名ヲ雇用ス

第六條 救濟院ノ敷地ハ公共財產(省市立、洞、親、庵、堂、廟宇、寺院其他ノ場所)利用スルコトヲ得

第七條 救濟院基金ハ地方收入又ハ沒收セル遺産中ヨリ之ヲ支出若ハ補助シ又ハ方法ヲ設ケテ之ヲ募集スルコトヲ得地方ニ存スル官立又ハ公立慈善機關ニシテ本規則第二條ノ各所ト同種ノモノハ存積スルコトヲ得但シ其ノ場合ハ名稱ヲ改メ救濟院ニ直屬セシムベシ

第八條 救濟院各所ノ基金ハ基金管理委員會ヲシテ之ヲ管理セシムベシ
基金管理委員會ハ地方官署ヨリ公薦セラレタル委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス救濟院長及副院長ハ委員トス

第九條 救濟院基金ハ流用スルコトヲ得ズ

第十條 救濟院基金管理委員會ニシテ其ノ基金ヲ以テ不動産ヲ購入スル場合ハ主務機關ノ許可アルコトヲ要ス購入後之ヲ讓渡スル場合亦同ジ

第十一條 救濟院ノ經費ハ基金利息、寄附金、指定補助金、臨時収入等ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 私人又ハ私人團體ノ資金ヲ集メテ辦理スル地方慈善事業ハ之ヲ存積セシム但シ主務機關ニ於テ之ヲ整理監督スベシ

第二章 養老所

第十三條 年齢六十才以上ノ男女ニシテ自活能力及扶養者無キ者ハ養老所ニ收養スルコトヲ得

第十四條 養老所ニ收養ノ老衰男女ハ身心ニ有益ナル課程ヲ教ヘ併セテ體質ニ依リ左ノ各種ノ作業ニ服セシム但シ老衰又ハ疾病ノ爲之ニ堪ヘ難キ者ハ之ヲ免除スルコトヲ得

甲 室内作業
一 紙類及物品ノ表装
二 紡績及編物

三 簡單ナル書畫

乙 室外作業
一 家畜ノ飼養
二 植物ノ栽培
三 衣服ノ裁縫及洗濯
四 簡單ナル通地工藝

丙 簡易ナル遊樂工藝

丁 其他體力ニ堪ヘ得ル作業

第十五條 養老所ハ收容者ノ心理ニ注意シ娛樂又ハ講談ヲ行ヒ其ノ生活ヲ調整スベシ

第十六條 養老所ハ左ノ設備ヲ備フベシ

一 教室
二 工作室
三 遊藝場
四 男子寢室 女子寢室
五 食堂
六 男子浴室 女子浴室
七 男子便所 女子便所
八 其他適當ノ部屋

前項室及場所ハ情況ニ應ジテ順次之ヲ設ケ清潔ヲ保持シ衛生ニ適合セシムベシ

第十七條 飲食及起居ハ規定ノ時間ヲ守リ衣服及寢具ハ隨時洗濯又ハ日光ニ當ツベシ

第十八條 疾病ニ罹リタル者ハ隨時治療所ニ送り其ノ患ヲ治療スベシ傳染病患者ハ之ヲ隔離スベシ

第十九條 死亡者ハ該所主任ヨリ院長又ハ副院長ヲ經テ公安局又ハ司法官廳ニ報告シ派遣員驗屍ノ後格ヲ備ヘテ入棺スベシ親族者有ルトキハ廿四時間内ニ引取ラシムベシ期限ヲ逾ユルモ引取ラザルトキハ救濟院ニ於テ埋葬スベシ

死亡者ノ遺留セル私有物品ハ其ノ親族者ニ交付スベシ親族者ナキトキハ之ヲ公共財產ニ收納ス

救濟院ノ埋葬セル死亡者ハ其ノ姓名年齢及原籍ヲ石標ニ刻ミ墓前ニ立ツベシ

第三章 孤兒所

第二十條 年齢六才以上十五才以下ノ貧苦ニシテ頼ル者ナキ男女ハ孤兒所ニ收容スルコトヲ得所内ノ設

備ハ第十六條ノ規定ヲ準用シ情狀ヲ酌量ノ上之ヲ處
 理スベシ
 第二十一條 前條ノ規定ニ依リテ入所セル幼年男女ハ
 人ニ遠寄ラレ司法官署又ハ公安局ヨリ送ラレ養育
 サル者以外ハ均シク其ノ親族又ハ近隣者ノ事實保
 障ニヨリ入所スルコトヲ得
 第二十二條 孤兒所ハ幼年男女ニ依リ附近ノ適當ナル
 學校ニ於テ費用ヲ免除ノ上修業セシムルカ又ハ其ノ
 才能性質ニ從ヒ適當ノ工藝ヲ授クベシ
 第二十三條 孤兒所ハ收養セル幼年男女ニシテ成年ニ
 達シ出所セントスルトキハ適當ナル職業ヲ紹介スベ
 シ
 第二十四條 孤兒所ハ收養セル幼年男女ニシテ之ヲ養
 子又ハ美女トセンコトヲ願フ者アルトキハ引受狀ト
 共ニ確實ナル保證人二人ヲ立テシムベシ調査ノ結果
 ニ因リ之ヲ許可スルコトヲ得
 引受後虐待又ハ轉賣スルガ如キコトアラバ本人ヲ引
 戻シタル上更ニ院ヨリ該引取人及保證人ヲ併セテ司
 法官署ニ送リ處罰スベシ
 第二十五條 孤兒所ニ收養セル男女成年ニ達シ習得セ
 ル技能ニ依リ自ラ衣食ヲ圖リ又ハ結婚シタキ者ハ所
 長ニ申出ヅベシ所長ハ配偶者ヲ選擇シ又ハ入籍ニ適
 當ナル者ヲ擇ビ先ヅ紹介シタル後二三回面談セシメ
 雙方共々同意ナキ時ハ願書ヲ作り確實ナル保證人二名
 ヲ立テ主婚親族ヲシテ同意狀及婚約證書ニ記入セ
 シメ本所ニ於テ調査ノ上確實ト認ムルトキハ之ヲ許
 可ス人民ヨリ嫁ニ娶リ入籍セシメント本所ニ申
 請スル者アルトキハ正當ナル職業及二名ノ確實ナル
 保證人アルコトヲ確カシ許可スベシ入籍又ハ嫁トナ
 シタル後重婚又ハ替玉又ハ轉賣シテ嫁妹又ハ娼妓ト
 ナシタルトキハ之ヲ引戻スノ外引取人及保證人ヲ同
 時ニ司法官署ニ送致シ處罰スベシ
 前條及本條ニ依リ引取養育セル者及結婚セル男女ハ
 救濟院ニ於テ隨時之ヲ訪問シ監視スルコトヲ得
 第二十六條 第十七條乃至第十九條ノ規定ハ之ヲ孤兒
 所ニ適用スルコトヲ得

第四章 救養所
 第二十七條 貧民ノ子女數多クシテ救養ヲ受ケ得ザル
 場合ハ救養所ニ入所セシムルコトヲ得所内ノ設備ハ
 第十六條ノ規定ヲ準用ス
 第二十八條 前條ノ規定ニ依ル幼年男女ハ其ノ直系尊
 屬ニ於テ來所申請シ併セテ親隣ノ正式證明書アルコ
 トヲ要ス
 第二十九條 救養所ニ收容セル幼年男女ハ年齢ニ依リ
 級ヲ編成シ之ニ相當ノ課程及各種工藝ヲ教フベシ
 第三十條 救養所ニ收容在留セル幼年男女ハ卒業
 時ニ其ノ直系尊屬ヲシテ之ヲ引取ラシメ又ハ適當ノ
 職業ヲ紹介シ又ハ上級學校ヘノ進學ヲ十分ニ扶助シ
 又ハ所ニ留メテ任用スベシ但シ本人不同意ノ場合ハ
 其ノ意志ニ從フベシ
 第五章 習藝所
 第三十一條 墮落青年ニシテ家産ヲ盡シ一定ノ職ナ
 ク遊民トナリ又ハ思想惡化シ悔悛ノ情ナキモノハ之
 ナ習藝所ニ收容スルコトヲ得所内ノ設備ハ第十六條
 ノ規定ヲ準用ス
 第三十二條 前條ノ規定ニ依リ入所スル青年ハ家族ノ
 申請ニ依リ入所スルノ外司法官署又ハ警察局ヨリ之
 ヲ送致スルコトヲ得
 第三十三條 習藝所ハ收容青年ニ對シ其ノ才能性質ニ
 基キ適當ナル工藝ヲ授クルコトヲ得已ニ技能ヲ備フ
 ル者ハ更ニ之ヲ習熟セシメル方法ヲ設ケテ善導感化
 スルノ外併セテ其ノ工資ヲ定メ代ツテ貯蓄ヲ爲シ悔
 悟出所ノ際元利合計シテ之ヲ交付シ以テ生計ヲ謀ラ
 シメ又ハ適當ノ職業ヲ紹介スベシ
 第三十四條 習藝所收容青年ノ出所後取締ノ必要アル
 トキハ所在地行政官署ニ移送シ保安處分ニ付スベシ
 第六章 不具者收容所
 第三十五條 不具者廢人ニシテ扶養者無キ者ハ老幼男
 女ヲ問はず不具者收容所ニ收容スルコトヲ得所内ノ
 設備ハ第十六條ノ規定ヲ準用ス
 第三十六條 不具者收容所ハ入所者ヲ肢體不具、盲及
 啞ノ三種ニ分チ夫々左記課程中ニ於テ區別シ之ヲ選

授スベシ
一 千字課
二 各種手工
三 簡易算術及珠算
四 社會常識
五 音樂及歌曲
六 點字綴文
七 各種工藝

第三十七條 不具者ニシテ教育ヲ受ケタル後確實ニ自活能力アル者ハ之ニ職業ヲ紹介シ出所セシムベシ

第三十八條 第十七條乃至第十九條ノ規定ハ不具者ニ之ヲ適用ス

第三十九條 不具者ニシテ保護スベキ特設機關ナキ場合ハ入所ヲ申請スルコトヲ得但シ飲食起居ハ務メテ之ヲ區別シ管理ニ易カラシムベシ

第七章 育嬰所

第四十條 貧苦及遺棄セラレタル男女嬰幼兒ハ之ヲ育嬰所ニ收養スルコトヲ得所内ノ設備ハ第十六條ノ

規定ヲ準用スルノ外病室、哭室、食料分配室、裁縫室、暖房室、衣服洗濯干物室、器具消毒室、衣服分配室、醫藥室及日夜看護部並ニ監護検査課部ヲ設クベシ

第四十一條 育嬰所雇用ノ嬰兒授乳乳母ハ各々嬰兒一名乃至二名ヲ受持タシム但シ院長又ハ副院長ノ許可ヲ得テ代乳品ヲ用フルコトヲ得

第四十二條 嬰幼兒ニハ國語手工ヲ授課スルヲ以テ主トシ別ニ多クノ有益玩具ヲ備付クベシ

第四十三條 滿六才以上ノ幼兒ニシテ父母ナキモノハ孤兒所ニ收養ス但シ第四十四條ノ準用ヲ妨グズ其ノ父母貧困ナル者ハ之ヲ救養所ニ送入スベシ

第八章 託兒所

第四十四條 勞働男子及婦女ハ家庭ノ世話ヲ省キ生産能力ヲ増進セシムルため其ノ嬰幼兒及十才以下ノ幼稚子女ヲ託兒所ニ寄託スルコトヲ得

第四十五條 第四十七條託兒所ハ定期託兒組ト臨時託兒組トニ分ツ

第四十六條 臨時託兒組ハ日間寄託ト夜間寄託ト兩種

ニ分チ當事者ナシテ之ヲ選擇セシム但シ最輕微ノ費用ハ之ヲ徴收スルコトヲ得

第四十七條 定期託兒組ノ徴收スル費用ハ其地方ノ情勢ニヨリ別ニ規定シ救濟院長許可ヲ得テ之ヲ行フ

第四十八條 託兒所ハ所ノ規定ニ依リ寄託サレタル男女嬰幼兒ノ月數及幼稚子女ノ年齢ニヨリ組ヲ編成シ保姆及乳母ノ責任ニ於テ之ヲ保護セシムベシ

第四十九條 託兒所ハ搖籃、搖床、搖車、輦車、木馬、草ボール等ノ玩具ヲ備付ケテ浴室、哺乳室ヲ設クベシ其ノ他ニ付キテハ第十六條及第四十條ヲ準用ス

第五十條 託兒所寄託ノ嬰兒及幼稚男女ニシテ小兒腦膜炎、彌瀰及流行病等急病ニ罹ルトキハ直ニ施醫所又ハ其ノ他ノ醫院ニ送リ治療スルノ外速ニ其ノ家族ニ通知スベシ

第九章 施療所

第五十一條 施療所ハ貧民ニ施療スルノ外衛生防疫ノ行政ヲ補助ス

第五十二條 施療所醫士ハ醫術ニ長シ官譽ノ許可證ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ聘任ス

第五十三條 施療所ニハ中醫部、西醫部、交付及待合處ヲ設ク

甲 中醫部 國醫部

乙 西醫部

一 内科室

二 外科室

三 手術室

四 藥劑室

第五十四條 施療所ハ救濟院收容者又ハ赤貧無能力者ヲ除クノ外受付料ヲ徴收スルコトヲ得其ノ金額ハ主管機關地方ノ狀勢ニテ別ニ之ヲ定ム

第五十五條 診察時間ハ毎日午前八時ヨリ十二時マア午後一時ヨリ五時マアトス但シ急患ノ場合ハ隨時診療スルコトヲ要ス

第五十六條 西洋藥ハ施療所之ヲ備ヘテ使用シ費用ヲ徴收セズ漢方藥ハ赤貧者ヲ除クノ外病人自ラ之ヲ購

フモノトス
第五十七條 施療所醫士ハ病人ヨリ贈物ヲ受取ルコトヲ許サズ
第五十八條 施療所ハ衛生防疫ニ關スル行政ヲ補助シ主審機關ノ指揮ヲ受クベシ
第五十九條 毎年種痘時期ニハ施療所ノ責任ニ於テ種痘ヲシテ予告スルコトヲ要ス
第十章 金融所
第六十條 金融所ハ貧民ヲ救済シ營業資本ヲ貸與スルヲメ之ヲ設ク
第六十一條 營業資本ナキ者金融所ヲ利用セントスルトキハ左ノ各號ノ規定ニ該當スルコトヲ要ス
一 年齢十五才以上ニシテ不良嗜好者ヲラザル者
二 正當營業ヲ營ミ又ハ營業マントシテ資本ナキ者
三 確實ナル商家ノ保證又ハ相當ノ保證人ナル者
第六十二條 貧民ニ對スル營業資本ノ貸與モ亦前條ニ依ル
第六十三條 一人ニ對スル貸與資本額ハ十元以上三百元以下トシ原則トシテ利息ヲ取ラズ
第六十四條 前項ノ貸與資本ハ適宜償還方法ヲ規定ス
第六十五條 當事者ノ要求アルトキハ資本ノ貸與ニ代ヘ仕入商品耕牛又ハ農具等ヲ貸與スルコトヲ得
第六十六條 貸與セル資本ニシテ期限ヲ超ユルモ尙返還セザルトキハ保證人之代償スベシ
第六十七條 資本返還期ニ至リ返還不能ナル事情ノ已ムヲ得ザルコト證明サルトキハ主任ヨリ院長ニ申請シ適宜處理スルコトヲ得
第六十八條 爲テ營業資本ヲ借リ營業ヲ爲サザル者ハ貸與資本又ハ商品ヲ返還セシムルノ外警察局ニ送致シ相當ノ處分ヲ爲スベシ
第十一章 難民收容所
第六十八條 兵火、水旱其ノ他已ムヲ得ザル災害ヲ蒙リ流離シテ住所ヲ失ヒ生活スル能ハザル難民ハ申請シテ難民所ニ入所スルコトヲ得
第六十九條 難民所ノ入所時ニ於テ事情ヲ調査シ禁制品携帯ノ有無ヲ検査シ直ニ本人及家族ノ姓名、原

籍、年齢及携帯セル荷物數ヲ區別シテ登記シ入所後
第七十條 難民ニシテ疾病ニ罹リ又ハ死亡セルトキハ第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス
第七十一條 難民中ノ老幼男女ニシテ第二條各號ノ規定ノ一ニ該當スル者ハ轉送シテ收容、養育、管理救養ス但シ希望セザル者ハ此ノ限ニ在ラズ
第七十二條 難民ニシテ第六十八條ニ記載セル事情消滅シタルトキハ之ニ旅費ヲ支給シテ原籍ニ復歸セシメ又ハ地方政府ニ申請シ邊區開拓ニ送付シ又ハ營業資本ヲ貸與スベシ
第七十三條 難民ニシテ他處ヨリ避難シ來レルトキハ其ノ人員ヲ明ニシ暫ク公共ノ場所若ハ空地ニ小屋掛セシメ又ハ之ヲ別テ他ノ區域ノ難民收容所ニ收容セシムベシ此ノ場合ニ於テ第六十九條、第七十條、第七十一條及第七十二條ノ規定ヲ準用スルコトヲ得
第十二章 救災所
第七十四條 救災所ハ人民又ハ地方ニシテ水火、旱魃其ノ他不可避ノ災害ヲ蒙リタル場合迅速且適切ナル救助ヲ實施スベキモノトス
第七十五條 前條ノ規定ニ依リ救災所ハ消防、水害防害、救生、漁田等ノ組ヲ設置スベシ
第七十六條 消防組ハ消防工人ヲ雇ヒ又ハ土地ノ掘丁ヲ招募シテ訓練ヲ加ヘ火政及救護工作ヲ教フ但シ出勤毎ニ津給ヲ給シ手押ポンプ、蒸氣ポンプ及破壊器具等ヲ備フベシ
第七十七條 救生組ハ水性熟知ノ工人ヲ雇用シ訓練ヲ施シ救生技術ヲ教育シ救命艇救命浮子ヲ備フベシ
第七十八條 漁田組ハ技術人材ヲ招聘シ漁獲ヲ開墾シ漁船ヲ設計シ併セテ吸上ポンプ及此種ノ導水應用器具ヲ備フベシ
第七十九條 水害防禦組ハ木柱、砂岩、セメント等ヲ備ヘ土地民丁ヲ訓練シ堤防決潰時ニ於テハ直ニ之ヲ防塞スベシ
第八十條 水旱災害ニ當リテハ救恤所直ニ之ヲ救済

スル外官米拂下及貧民失業救済事業ノ起工テ計畫施行スベシ

第十三章 救恤所

第八十一條 救恤所ハ金錢米穀及衣食ノ給與、棺材ノ施給及埋葬等ヲ爲ス

第八十二條 救恤所ハ不可避ノ災害及饑寒ニ遭遇シ窮乏セル者ニ對シテ臨時救濟ヲナシ人数ニヨリテ米糧及衣服ヲ供給シ又ハ被災地ニ於テ直ニ米粥供給所ヲ設置シ備フベシ

第八十三條 救恤所ハ冬寒酷暑ニ於テ調査ノ上赤貧者ニ對シ其ノ人数ノ多寡ニヨリ錢米及和衣ヲ給與シテ救濟セシメ又ハ人口稠密ノ處ニ粥供給所ヲ設置シ貧民ノ餓饉ニ備フベシ

第八十四條 將ニ分娩セントスル貧婦ニシテ來所ノ上産婦給與ヲ求ムルトキハ之ニ五元以上十元以下ノ金錢ヲ給與シ滋養食品購買ノ資ト爲サシムベシ

第八十五條 赤貧ノ男女死亡シ埋葬者ナキ場合其ノ家族來所ノ上事情ヲ訴ヘタルトキハ棺ヲ給與シ代ツテ

公墓ニ安葬スベシ

第八十六條 公路死亡者ニシテ埋葬者ナキ屍ハ土地司法官署又ハ警察局長ニ申告シ驗屍ノ上代ツテ埋葬スベシ

第八十七條 救恤所ハ豫メ若干ノ單衣服及棺ヲ備ヘ救恤ニ應ズベシ

第十四章 附則

第八十八條 救濟院各所ノ收支項目及事務ノ實況ハ院長又ハ副院長ニ於テ毎月之ヲ公告シ別ニ豫算書收支對照表及目錄事實記載表ヲ作成シ主管機關ニ提出シテ其ノ審査及許可ヲ受クベシ

第八十九條 救濟院各所ノ事務取扱規則ハ當該主管機關ニ之ヲ制定ス

第九十條 救濟院基金管理委員會ノ組織及事務取扱ハ當該主管機關ニ之ヲ制定シ内政部ニ報告スベシ

第九十一條 金錢又ハ不動産ヲ以テ救濟院ニ對シ義捐援助ヲ爲ス者ハ個人名義タルト私人團體名義タルトテ間ハ主管機關ニ於テ之ヲ獎勵ス其ノ義捐額ト獎

助ノ關係左ノ如シ

一 義捐額百元以上ノ者ニハ普通市縣署ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

二 義捐額三百元以上ノ者ニハ道尹公署ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

三 義捐額五百元以上ノ者ニハ各省民政廳ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

四 義捐額千元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市ヨリ署名入ノ横額ヲ贈呈ス

五 義捐額三千元以上ノ者ニハ内政部ヨリ署名入リノ横額ヲ贈呈ス

六 義捐額五千元以上ノ者ニハ維新政府ヨリ署名入リノ横額ヲ贈呈ス

第九十二條 維新政府ヨリ贈呈スル獎額ハ地方最高長官事實ヲ列記シテ内政部ニ報告シ調査ノ上省政府及民政廳ヨリ署名ヲ入レテ贈呈セラルル獎額ハ年末ニ於テ取額メ内政部ニ報告シ登錄セラルベシ

第九十三條 已ニ獎額ヲ受ケタル者ニシテ捐資ヲ續行ストキハ前後金額ヲ合計シタル上優獎セラルトス

第九十四條 募集ニ依ル捐資金額ガ第九十一條各款ノ金額ノ五倍以上ニ上ル者ニ於テハ本號ニ照シ署名入ノ額ヲ贈呈ス

第九十五條 動産又ハ不動産ヲ以テ捐助スル者ハ銀元ニ換算シテ計算ス

第九十六條 救濟事業ニ携ハルコト三年以上ニシテ功績アル者ハ地方最高長官ノ申請ヲ待テ内政部ニ於テ臨時之ヲ褒獎ス

第九十七條 華僑ニシテ私財又ハ團體ノ資ヲ以テ救濟院ヲ捐助シ以テ本國人民ヲ救濟セントスル者ハ各駐在地公使又ハ領事ノ申請ヲ待テ内政部ニ於テ臨時之ヲ褒獎ス

第九十八條 本規則ニ主管機關ト稱スルモノハ其ノ區別左ノ如シ

一 省政府所在地ハ民政廳ヲ以テ主管機關トス

二 特別市ハ特別市政府ヲ以テ主管機關トス

三 縣普通市區、鎮、郷自治會ハ縣市公署ヲ以テ主
管機關トス
第九十九條 縣及普通市等ノ救濟院ノ組織、施設、報
告等ノ事項ハ縣市公署ヲ經テ道尹公署ニ報告シ更
ニ民政廳ニ轉送シテ裁定テ仰グベシ本規則ニ依リ内
政部ノ許可又ハ登錄ヲ受クルトキハ道尹公署ヨリ民
政廳ヲ經由シテ省政府ニ送付スベシ
第一百條 院務ニ携ハル者職ヲ懈怠シ又ハ公費ヲ私
シ又ハ職務ヲ濫用シテ自己又ハ第三者ノ利益ヲ計ル
トキハ人民ノ告發ニ依ルト主官機關ノ發見ニ依ルト
テ同ハズ懲責減俸若ハ免職ノ處分ニ付シ又ハ司法機
關ニ送致シテ處罰スルコトヲ得
第一百〇一條 本規則ニ不備ナル點ハ内政部之ヲ修正
ス
第一百〇二條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

修訂捐資與學獎條例

民國二十八年二月八日

第一條 私有財產ヲ以テ學校、圖書館、博物館、
美術館、其ノ他ノ教育事業ヲ創立又ハ寄附シ若ハ獎
學金トナスコトヲ指定シタルトキハ本條例ニ依リ獎
學金ヲ申請スルコトヲ得
第二條 金錢ヲ寄附シタルトキハ個人名義又ハ私
人團體名義ヲ用フルヲ限ハズ一律ニ其ノ寄附金額ニ
應ジ第三條ノ規定ニ依リテ各等ノ獎狀ヲ授與ス
第三條 獎勵狀五等ニ分テ其ノ給與ノ標準次ノ如
シ
一 寄附金一萬元以上トキハ一等獎狀ヲ授與ス
二 寄附金五千元以上一萬元未滿トキハ二等獎狀
ヲ授與ス
三 寄附金三千元以上五千元未滿トキハ三等獎狀
ヲ授與ス
四 寄附金一千元以上三千元未滿トキハ四等獎狀

ヲ授與ス
五 寄附金五百元以上一千元未滿トキハ五等獎狀
ヲ授與ス
第四條 凡ソ寄附金五百元未滿ノモノニ付テハ其
ノ獎學條例ハ各地方最高教育行政機關ニ於テ單行規
程ヲ定メテ處理シ教育部ニ報告スルコトヲ記録ス
第五條 四等以下ノ獎狀ヲ授與スベキトハ省教育
廳又ハ特別市教育局ニ於テ事實表簿及寄附金實證ヲ
作成添附シ省政府又ハ特別市政府ニ申請シテ查明
ノ上授與シ年末ニ一括シテ教育部ニ報告スルモノト
ス
第六條 三等以上ノ獎狀ヲ授與スベキトキハ省教
育廳又ハ特別市教育局ニ於テ事實表簿及寄附金實證ヲ
作成添附シ教育部ニ申請シテ查明ノ上授與ス
第七條 寄附金三萬元以上トキハ一等獎狀ヲ給
與スルノ外教育部ニ於テ年末ニ專案ヲ一括シ維新政
府ニ申請シテ公ニ之ヲ嘉獎ス十萬元以上ニ及ブトキ
ハ一等獎狀ヲ授與スルノ外教育部ニ於テ維新政府ニ

捐資舉辦救濟事業獎條例
 民國二十八年三月二十九日

第一條 義捐金ヲ以テ救濟事業ヲ爲ス者ハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ褒獎ス
 ノ前項ノ救濟事業トハ救災、濟貧、養老、養孤見及其
 ノ他ノ救濟事業ヲ謂フ

第二條 私人名義タルト私人團體名義タルトハ同
 ハズ義捐金ヲ以テ救濟事業ヲ爲ス者ハ均シク本條例
 ナ適用ス

第三條 表彰ハ之ヲ左ノ三種ニ分チテ之ヲ爲ス
 一 維新政府ニ於テ匾額ニ題書シテ之ヲ給與スル場
 合
 二 內政部ニ於テ匾額ニ題書シテ之ヲ給與シ又ハ金
 褒章ヲ給與スル場合
 三 省政府又ハ特別市政府ニ於テ匾額ニ題書シテ之
 ナ給與シ又ハ銀褒章ヲ給與スル場合
 第四條 匾額、褒章及獎章ハ左ノ等級ニ分チテ之

ヲ給與ス

一 義捐金一萬元以上ノ者ニハ維新政府ニ於テ匾額
 ニ題書シテ之ヲ給與シ內政部ニ於テ特等金褒章
 ナ給與ス

二 義捐金五千元以上ノ者ニハ維新政府ニ於テ匾額
 ニ題書シテ之ヲ給與シ內政部ニ於テ一等金褒章
 ナ給與ス

三 義捐金一千元以上ノ者ニハ內政部ニ於テ題書セ
 ル匾額及二等金褒章ヲ給與ス

四 義捐金五百元以上ノ者ニハ內政部ニ於テ三等金
 褒章ヲ給與ス

五 義捐金四百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政
 府ニ於テ一等銀褒章ヲ給與ス

六 義捐金三百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政
 府ニ於テ二等銀褒章ヲ給與ス

七 義捐金二百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政
 府ニ於テ三等銀褒章ヲ給與ス

八 義捐金一百元以上ノ者ニハ省政府又ハ特別市政

申請シテ公ニ之ヲ嘉獎ス

第八條 國立大學附屬教育機關ニ金錢ヲ寄附シタ
 ルトキハ其ノ褒獎申請事項ハ大對ヨリ教育部ニ申請
 シテ審査ノ上處理ス

第九條 既ニ獎狀ヲ授與セラレタル者引續キ金錢
 ナ寄附シタルトハ前後ノ金額ヲ合計シ等ニ按シ又
 ハ等ヲ越エテ獎狀ヲ授與ス

第十條 凡ソ寄附金ヲ募集シタル者ニ對シテハ本
 條例第三條ニ列記シタル各數ニ依リ其ノ十倍ヲ以テ
 計算シ夫々獎狀ヲ授與ス

第十一條 動産又ハ不動産ヲ以テ寄附シタルトキハ
 現金ニ換算シテ計算スルコトヲ得

第十二條 準備ニシテ國外ニ於テ私財ヲ以テ學校及
 其ノ他ノ教育機關ヲ創立又ハ寄附シ以テ本國ノ子弟
 ナ養成シタルトキハ駐外領事館ニ於テ事實表簿及寄
 附金實證ヲ作成添附シ教育部ニ申請シテ查明ノ上給
 與ス

第十三條 本條例ニ依リ褒狀ヲ授與シタルトキハ其

ノ寄附金ヲ收受スベキ教育機關ハ公立又認可ヲ經タ
 ル私立ノモノニ限ル

第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 獎狀圖樣及捐資與學事實表格式(省略)

府ニ於テ四等銀褒章ヲ給與ス
 第五條 題書セル匾額、褒章及獎章ハ左ノ手續ニ依リテ給與ス
 一 維新政府ノ題書シテ給與スル匾額ハ内政部ヨリ行政院ニ申請シ更ニ維新政府ニ轉請シテ之ヲ給與ス
 二 内政部ノ題書シテ給與スル匾額又ハ金褒章ハ省政府又ハ特別市政府ヨリ内政部ニ申請シテ之ヲ給與ス
 三 省政府又ハ特別市政府ノ給與スル銀獎章ハ民政廳又ハ社會局ヨリ省政府又ハ特別市政府ニ申請シテ給與ス
 第六條 自カラ救濟事業ヲ爲シ其ノ成績顯著ナル者ニハ其ノ出資金額ノ第四條第三號ノ定額ニ滿タザル場合ト雖内政部ハ省政府又ハ特別市政府ノ申請ヲ待テ匾額ニ題書シテ之ヲ給與スルコトヲ得
 第七條 私人又ハ私人團體ニシテ義捐金ヲ以テ救濟事業ニ贊助スル者ハ第四條及第五條ノ規定ニ照ラ

シテ之ヲ褒獎スルコトヲ得
 第八條 私人又ハ私人團體ニシテ獨力ヲ以テ資金ヲ出シ救濟事業ヲ爲ス者ハ省政府又ハ特別市政府ニ於テ人ヲ派シ成績確實ト認メタルトキハ其ノ救濟範圍ノ廣狹ニ應ジ本條例ノ規定ニ依リテ之ガ褒獎ヲ申請シ又ハ直ニ褒獎スルコトヲ得
 第九條 申請ニ依リ省政府又ハ特別市政府ニ於テ褒獎ヲ給與スルトキハ受獎者ノ姓名、原籍、住所又ハ團體名及所在地ニ其ノ事蹟ヲ連記シ内政部ニ報告スベシ
 第十條 褒章及獎章ノ形式ハ内政部ニ於テ之ヲ定メ
 第十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七編 財政

- 府ニ於テ四等銀貨章ヲ給與ス
- 第 五 條 題書セル匾額、褒章及勳章ハ左ノ手續ニ依リテ給與ス
 - 一 維新政府ノ題書シテ給與スル匾額ハ内政部ヨリ行政院ニ申請シ更ニ維新政府ニ轉請シテ之ヲ給與ス
 - 二 内政部ノ題書シテ給與スル匾額又ハ金葉章ハ省政府又ハ特別市政府ヨリ内政部ニ申請シテ之ヲ給與ス
 - 三 省政府又ハ特別市政府ノ給與スル銀葉章ハ民政廳又ハ社會局ヨリ省政府又ハ特別市政府ニ申請シテ之ヲ給與ス
- 第 六 條 自カラ救済事業ヲ爲シ共ノ成績顯著ナル者ニハ其ノ出資金額ノ第四條第三號ノ定額ニ滿タザル場合ト雖内政部ハ省政府又ハ特別市政府ノ申請ヲ待テ匾額ニ題書シテ之ヲ給與スルコトヲ得
- 第 七 條 私人又ハ私人團體ニシテ義捐金ヲ以テ救済事業ニ贊助スル者ハ第四條及第五條ノ規定ニ照ラシテ之ヲ給與スルコトヲ得
- 第 八 條 私人又ハ私人團體ニシテ獨力ヲ以テ資金ヲ出シ救済事業ヲ爲ス者ハ省政府又ハ特別市政府ニ於テ人ヲ派シ成績確實ト認メタルトキハ其ノ救済範圍ノ廣狹ニ應ジ本條例ノ規定ニ依リテ之ヲ發給シテシ又ハ直ニ發給スルコトヲ得
- 第 九 條 申請ニ依リ省政府又ハ特別市政府ニ於テ發給ヲ給與スルトキハ受給者ノ姓名、原籍、住所又ハ團體名及所在地ニ具ノ事項ヲ連記シ内政部ニ報告スベシ
- 第 十 條 褒章及勳章ノ形式ハ内政部ニ於テ之ヲ定ム
- 第 十一 條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



第三編 刑罰

非常時期財政經濟擾亂取締條例

民國二十七年十二月十日

- 第一條 財政部ハ非常時期ニ於テ國內財政經濟ノ機構ヲ保護シ人民ノ意外ナル損失ヲ防止スルノ目的ヲ以テ特ニ本條例ヲ制定シテ之ヲ取締ル
- 第二條 左記各號ノ規定ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ徒刑ニ處シ又ハ五千元以下ノ罰金ヲ科シ其ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收ス
- 一 財政部ノ許可ヲ得ズシテ私ニ金、銀、銅及銀貨、ニツケル貨、銅貨ヲ輸出シタル者
- 二 投機ノ目的ヲ以テ通貨及外國爲替ヲ買賣シタル者
- 三 財政及經濟ノ破壊ニ關スル謠言ヲ作製又ハ散布シタル者
- 四 財政經濟擾亂ノ目的ヲ以テ故意ニ政府ノ法令ニ違反シタル者
- 第三條 本條例ノ施行及廢止期日ハ財政部ニ於テ

命令ヲ以テ之ヲ定ム

金融機關取締條例

民國二十七年十二月十日

- 第一條 本條例ニ稱スル金融機關トハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハズ預金、貸付、割引又ハ爲替業務ヲ經營スル者ハ均シク之ニ屬ス但シ補助貨幣ノ兌換ヲ以テ業ト爲ス者ハ此ノ限リニ在ラズ
- 第二條 財政部ノ認可ヲ經ルニ非ザレハ金融機關ノ業務ヲ經營スルコトヲ得ズ
- 第三條 金融機關ヲ設立セムト欲スル者ハ財政部ニ對シ左記事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出シ財政部ノ認可ヲ經營業許可證ヲ受領スルコトヲ要ス
- 一 名稱
- 二 組織
- 三 資本總額
- 四 總行(本店)及分、支行(分、支店)
- 五 營業範圍
- 六 營業年限

一七四

七 決算期

- 八 創立人ノ姓名、原籍、住所
 - 九 董事、監察人及經理ノ姓名、原籍、住所
- 前項ノ申請事項ノ變更アリタルキハ財政部ノ認可ヲ受クベシ
- 第四條 財政部ハ金融機關ニ對シ統制上必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム
 - 第五條 金融機關ハ其ノ資産、負債ノ狀況及取引概要ヲ六月毎ニ財政部ニ報告スベシ
 - 第六條 必要ト認メタルキハ隨時報告ヲ提出セシメ及其ノ帳簿及財産ヲ検査スルコトヲ得
 - 第六條 本條例ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ三千元以下ノ罰金ニ處スコトヲ得
 - 第七條 本條例ハ銀行法施行後之ヲ廢止ス
 - 第八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

縣鄉水利經費國庫補助貸與條例

民國二十八年二月六日

- 第一條 縣費ヲ以テ經營スベキ左記水利事項ニシテ經費不足ニシテ施行シ得ザルトキハ本條例ニ依リ國庫ヨリ之ヲ補助又ハ貸與スルコトヲ得
- 一 堤防ヲ建造修理シ沈堆箇所ヲ疏導シ以テ水患ヲ防止スル事項
- 二 水道ヲ開拓シ以テ灌漑又ハ排水ニ利スル事項
- 第二條 補助金ハ第一條ノ事項ヲ實施スル場合ニ限リ之ヲ支給シ三等ニ分ツ
- 一 施行事業ニシテ其ノ利害關係カ二縣以上ニ涉リ且工事費五萬元ヲ超過ストキハ一等トシ工事費全額ノ十分ノ三ヲ請求スルコトヲ得
- 二 施行事業ニシテ一縣内ニ上ルト雖其ノ利害關係カ二縣以上ニ影響シ且工事費一萬元以上ヲ超過スルトハ二等トシ工事費全額ノ十分ノ二ヲ請求スルコトヲ得

一七五

- 三 施行事業ニシテ地方ノ利害ニ關係スルコト甚大ニシテ且工事費五千元以上ヲ超過スルトキハ三等トシ工事費全額ノ十分ノ一ヲ請求スルコトヲ得
- 第三條 貸與金ハ第一條第二號ノ事項ヲ實施スル場合ニ限リ之ヲ融資シ三等ニ分ツ
- 一 施行事業ニシテ受益面積五十方里以上ニ涉リ且工事費一萬元ヲ超過スルトキハ一等トシ貸與金ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ工事費全額ノ半ヲ超過セザルコトヲ要ス
- 二 施行事業ニシテ受益面積三十方里以上ニ涉リ且工事費五千元ヲ超過スルトキハ二等トシ貸與金ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ工事費全額ノ十分ノ三ヲ超過セザルコトヲ要ス
- 三 施行事業ニシテ受益面積十五方里以上ニ涉リ且工事費一千元ヲ超過スルトキハ三等トシ貸與金ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ工事費全額ノ十分ノ二ヲ超過セザルコトヲ要ス
- 第四條 前條貸與金ノ弁済ニ充ツベ適當ナル經費

一七六
キハ其ノ規定ニ從フ
第九條 本條例ハ公布ノ目ヨリ之ヲ施行ス

ナキハ政府ハ非濟費金ナキトハ受益者ヨリ逐年ヲ貢
納金ヲ徵收シテ非濟ニ充ツベシヲ分テ抽捐(稅捐
ノ徵收)シテ返但シ省政府ヲ經財政部ニ轉咨請スル
コトヲ要ス
前項ノ貢納金ハ毎年正統ノ百分ノ二十ヲ超過スルコ
トヲ得ズ
第五條 貸與金ノ利息ハ年利五分ヲ超過スルコト
ヲ得ズ
第六條 本條例ニ依ル補助又ハ貸與ノ申請ハ省政
府ニ申請シ職員ヲ派シテ查明シ内政部ノ審査ヲ經ル
ニ非ザレハ認可スルコトヲ得ズ内政部ハ同時ニ財政
部ニ咨請スルコトヲ要ス
前項ノ補助金又ハ貸與金ハ内政部ニ於テ未タ豫算ニ
編入セザル以前ニ於テハ併行政院ノ認可ヲ受クヘシ
第七條 各省政府ハ本條例ニ抵觸セザル範圍内ニ
於テ別ニ省經費ヲ以テ補助金ハ貸與金ノ辦法ヲ定ム
ルコトヲ得但シ内政部ニ咨請スベシ
第八條 全國水利法本條例ト異リタル規定アルト

江蘇、浙江、安徽三省ノ民國二十六年
分及歷年滯納丁漕並ニ附加稅未徵收
分ノ免除ニ關スル件

民國二十七年七月二十二日

江蘇、浙江、安徽ノ三省ハ去秋戰事發生シテヨリ災ヲ
被ルコト極メテ甚クシク流民道ニ溢レ滿目瘡痍タリ
加之土匪散殘共ノ各處ニ現レ農村ヲ蹂躪シ經濟崩潰ス
誠ニ憂慮ニ堪ヘズ政府ハ善後策ヲ考察シ民困ヲ軫念シ
テ唯人民ノ負擔ノ輕減、元氣ノ早急恢復ヲ庶幾シ財政
部ヲシテ各省長ニ通告シテ速ニ未ダ徵收セザル二十六
年分及歷年滯納シタル丁漕並ニ附加稅ヲ一律ニ免除セ
シメ以テ川黎體恤ノ至意ヲ示サシム
此ニ令ス

第八編 學事、寺廟

REEL No. A-0708

0513

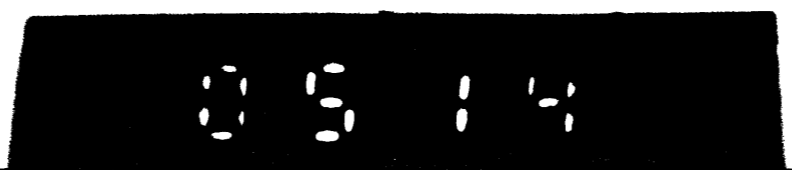
第八編 學事七章

關於教育宗旨之件

(民國二十七年五月三十日維新政府令)

維新政府ノ教育ハ中國固有ノ道德文化ヲ恢宏シ廣ク
世界ノ科學知識ヲ吸收シ以テ理智精神體力強健ナル國
民ヲ養成スルヲ宗旨トス

行政院長 陳 鴻 志
教育部長 陳 羣



教育宗旨實施方針

(民國二十七年八月十一日)

- 一 教育宗旨實施ニ際シテハ左ノ方針ヲ遵守スベシ
 - 大學教育ハ純粹科學ニ重點ヲ置キ高邁ナル對象ヲ研究ス高等專門教育ハ實用科學ニ重點ヲ置キ專門ノ知識技能ヲ養成シ併テ切實陶融(適切ナル教育ヲナシ)以テ國家社會服務ノ健全ナル人格ヲ作ル
 - 普通教育ハ歴代聖賢ノ言行ヲ根據トシ以テ國民道德ノ基礎ヲ立テ併テ國民ノ生活技能ヲ培養シ以テ其ノ生産能力ヲ増進スルヲ主要目的トス
 - 師範教育ハ國民教育ノ本トシ 必ズ適切ナル科學教育ト嚴格ナル身心ノ訓練トヲ以テ一般國民ノ道德及學術上ノ健全ナル師範タルベキモノヲ養成スルヲ主要ノ任務トシ依テ可能ノ範圍内ニ於テ獨立ノ施設ヲナス
 - 社會教育ハ學校教育ノ補助トシ 國民ニ國際情況ヲ認識セシメ善隣ニ親ムノ道ヲ深ク知ラシメ併セテ

一八〇

- 近代都市及農村生活ノ常識家庭經濟改善ノ技能等國民トシテノ資格更ニ公共事業及森林公園等ノ愛護ノ習慣養老災害救助ノ美德ヲ具備セシム
- 男女教育ハ機會均等トシ 女子教育ハ特ニ健全ナル德性陶冶ニ力ヲ注ギ良妻賢母ノ特質ヲ保持シ併テ良好ナル家庭生活及社會生活ノ建設ヲ圖ル
- 各級學校及社會教育ハ同時ニ國民體育ノ増進ニ力ヲ注グ 其ノ目的ハ民族體力増進ニアリ且ツ強健ナル精神ノ鍛鍊ヲナシ以テ規律ニ服従スルノ習慣ヲ養成スルヲ主要任務トス
- 中國ハ農ヲ以テ立國ス 農ヲ弘ムルニハ農業教育機關ト産業界ト當ニ緊密ニ連絡シ以テ積極的施設ヲ圖ル要アリ凡ソ農業生産方法ノ改善農民技能ノ増進農村組織ト農民生活ノ改善及農業科學知識ノ普及農民生産消費合作ノ促進等ニ全力ヲ以テ之ヲ推行ス

教育部督學規則

民國二十七年七月二十五日

- 第一條 教育部ハ教育部組織法ノ規定ニ依リ督學ヲ派シ全國教育事情ヲ觀察及指導ス但シ必要アル場合ハ部員ヲ派遣シ協同シテ處理スルコトヲ得
- 第二條 督學ノ觀察及指導スベキ事項左ノ如シ
 - 一 教育法令ノ推行ニ關スル事項
 - 二 學校教育ニ關スル事項
 - 三 社會教育ニ關スル事項
 - 四 地方教育行政ニ關スル事項
 - 五 其ノ他教育ト關係アル事項
 - 六 部令ニ依ル特命觀察又ハ指導ニ關スル事項
- 第三條 地方教育ノ觀察ハ定期及臨時ノ兩種ニ分ツ定期觀察ハ毎年二回トシ期間ハ二月乃至五月トス臨時觀察ハ部令ニ依リ之ヲ定ム
- 第四條 督學觀察ノ區域及其ノ任務ノ分配ハ別記之ヲ定ム

第五條

- 督學ハ第二條第一號乃至第五號ノ事項ニ付テハ出發ノ以前ニ於テ標準ヲ擬訂シ之ヲ作成シ說明ヲ加ヘテ各主管司處立會ノ上部長ノ裁定ヲ經テ之ヲ行フ
- 第六條 督學ハ各地方ニ赴キ學校又ハ其ノ他ノ教育機關ヲ觀察スルニ當リ豫告スベカラズ
- 第七條 督學地方ニ至ラバ其地ニ於ケル行政長官省市縣督學、官公立學校校長及其ノ他教育關係者ト地方教育ノ現在及過去ノ狀況及將來ノ企劃ニ付協議討論ヲナスベシ
- 第八條 地方各校ニ重大紛糾事件發生セル場合ハ本部ハ督學ヲ派遣觀察ノ上權ヲ視テ紛糾ヲ調停シ又ハ之ヲ處分スベシ但シ必要アル場合ハ本部ノ指示ヲ請ヒ地方官協議ノ上之ヲ處理スベシ
- 第九條 督學觀察ノ時ニ於テ各校ノ課本、課程及一切ノ行動ニシテ教育法令ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ隨時之ヲ糾企スベシ但シ其ノ事情重大ナルモノハ前後後段ノ規定ニ依リ之ヲ處理スベシ

一八一

第十條 督學ハ視察ニ當リ學生ノ數及試験ノ成績ヲ調査スルコトヲ得
第十一條 督學ハ職務上必要ト認ムル場合ハ新ク學校ノ授業時間ヲ變更スルコトヲ得
第十二條 督學ハ學校及其ノ他ノ教育機關ヲ視察シ其ノ操業ヲ監督スルコトヲ得
第十三條 督學ハ視察スベキ教育機關又ハ公共處所ニ宿泊スルコトヲ得但シ養護ヲ求ムルコトヲ得ズ
第十四條 督學ハ第二條ノ視察及指導ノ事項ニ關シ隨時摘要ヲ部長及次長ニ報告シ任務完了ノ後摘要ヲ口頭ヲ以テ陳述スルノ外報告書ヲ作成シテ改革意見ヲ附シテ之ヲ部長及次長ニ提出シ審査ヲ受ケ關係各司處ニ交付シテ實施セシムベシ
第十五條 特殊ナル事情アル場合ハ部長ハ臨時專門視察員ヲ聘任スルコトヲ得臨時專門視察員ニ關シテハ第六條乃至第十四條ノ規定ヲ適用ス
第十六條 督學事務ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム
第十七條 本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大學法

民國二十七年十一月十六日

第一條 大學ハ中華民國維新政府ノ教育宗旨及其ノ實施方針ヲ遵照シ高深ナル學術ノ研究、專門人才ヲ養成ヲ以テ目的ト爲ス
第二條 國立大學ハ教育部ニ於テ全國各地ノ事情ヲ審察シテ之ヲ設立ス
第三條 省政府ニ於テ設立シタルモノハ省立大學ト爲シ市政府ニ於テ設立シタルモノハ市立大學ト爲シ私人又ハ私法人ニ於テ設立シタルモノハ私立大學ト爲ス
前項ノ大學ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ教育部ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
第四條 大學ハ文、理、法、教育、農工、商及醫ノ各學院ニ分ツコトヲ得
第五條 三學院以上ヲ具備スルモノハ大學ト稱スルコトヲ得然ラザルモノハ某某學院ト稱ス

第六條 大學各學院及獨立學院ハ研究科及專修科ヲ附設スルコトヲ得
第七條 大學各學院又ハ獨立學院ノ各科ハ若干學系ニ分ツコトヲ得
第八條 各學院ヲ卒業シタル者ハ研究科ニ入ルコトヲ得
第九條 大學ハ各研究科間ノ連絡協調ヲ圖ル爲研究院ヲ設ケルコトヲ得
第十條 大學ハ特別ノ必要アリ教育部ノ認可ヲ受ケタルトキハ三年制ノ學科ヲ設立スルコトヲ得
第十一條 大學學科ノ設備及編制ハ高等學校ノ各規定ヲ準用ス
第十二條 大學學科ノ新入生ノ人數ハ該大學ノ毎年收容スベキ人數ヲ超過セザルコトヲ要ス
第十三條 大學及大學學科ノ學則ニシテ法令ノ範圍内ノモノハ該學校ニ於テ之ヲ定ム、但シ教育部ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
第十四條 大學ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ綜理セシム

國立大學校長ハ、維新政府ニ於テ之ヲ任命シ省、市立
 大學校長ハ省、市政府ニ於テ維新政府ノ認可ヲ受ケ
 テ任命ス

第十條 獨立學院ニ院長一人ヲ置キ院務ヲ總理セ
 シム

第十一條 獨立ノモノハ、教育部ニ於テ之ヲ聘任シ省立又ハ市立
 ノモノハ省又ハ市政府ニ於テ教育部ノ認可ヲ受ケ之
 ヲ聘任ス

第十二條 大學各學院ニ院長一人ヲ置キテ院務ヲ綜
 理セシメ校長ニ於テ之ヲ聘任ス

第十三條 獨立學院各科ニ主任一人ヲ置キテ科ノ教務ヲ綜
 理セシメ院長ニ於テ之ヲ聘任ス

第十四條 大學各院系ニ主任一人ヲ置キテ科系教務
 ヲ處理セシメ院長ニ於テ校長ト協議ノ上之ヲ聘任ス

第十五條 第十五條乃至第十七條ニ依リ設ケル校
 長、院長及主任ハ其ノ他ノ官職ヲ兼任スルコトヲ得
 ス

第十六條 大學各學院ノ教員ヲ教授、副教授、講師

及助教ノ四種ニ分チ院長ニ於テ校長ト協議ノ上之ヲ
 聘任ス

第十七條 大學ハ兼任教員ヲ聘任スルコトヲ得但
 シ其ノ總數ハ全體教員ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ
 得ズ

第十八條 大學ニ校務會議ヲ設ケ全體ノ教授及助教
 授ノ選出シタル代表者若干人、校長、各學院院長及各
 科系主任ヲ以テ之ヲ組織シ校長ヲ以テ主席ト爲ス
 前項ノ會議ニ校長ハ專門家ヲ招聘シ列席セシムルコ
 トヲ得但シ其ノ人數ハ全體人數ノ五分ノ一ヲ超過ス
 ルコトヲ得ズ

第十九條 校務會議ハ左ノ各項ヲ審議ス

- 一 大學課程
- 二 大學學院ノ設立及廢止
- 三 大學課程
- 四 大學内部ノ各規則
- 五 學生ノ試驗ニ關スル事項
- 六 學生ノ訓育ニ關スル事項

七 校長ノ附屬事項

第二十三條 校務會議ハ各項委員會ヲ設ケルコトヲ得

第二十四條 大學各學院ニ院務會議ヲ設ケ院長、科系
 主任及事務主任ヲ以テ之ヲ組織シ院長ヲ主席ト爲シ
 本院ノ學術及設備事項ヲ計畫シ本院ノ一切ノ事務ヲ
 審議ス

第二十五條 各院系ニ科系教務會議ヲ設ケルコトヲ得科系主任、
 本科系教授、副教授及講師ヲ以テ之ヲ組織シ科系主
 任ヲ以テ主席ト爲シ科系ノ學術及設備事項ヲ計畫ス

第二十六條 大學職員及事務員ハ校長ニ於テ之ヲ任用
 ス

第二十七條 大學及學院ノ入學資格ハ大學課程及省、
 市、縣立若ハ認可ヲ經タル私立高等學校又ハ之ト同
 等ノ學校ヲ卒業シ入學試驗ニ合格シタル者ナルコト
 ヲ要ス

第二十八條 大學ノ修業年限ハ醫學院ニ限リ四年トシ
 其ノ他ハ三年トス

第二十九條 大學學生ニシテ修業期間満了シ成績考査

ニ合格シタルトキハ大學ニ於テ卒業證書ヲ授與シ某
 科學士ト稱スルコトヲ得

第三十條 本法第三條第二項、第十二條、第十三
 條、第十七條乃至第二十四條乃至第二十八
 條ハ獨立學院ニ之ヲ準用ス

第三十一條 私立大學又ハ私立獨立學院理事會ノ組織
 及權限ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム

第三十二條 大學又ハ獨立學院ノ規程ハ教育部ニ於テ
 之ヲ定ム

第三十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 高等學校ハ中華民國維新政府ノ教育宗旨及其ノ實施方針ヲ遵照シテ高等普通教育ノ完成ヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ注意スベシ
- 第二條 高等學校ハ教育部ニ於テ國內各地ノ事情ヲ審察シ之ヲ設立ス
- 第三條 高等學校ニシテ省政府又ハ市政府ニ於テ設立シタルモノハ省立又ハ私立高等學校トシ私人又ハ私法人ニ於テ設立シタルモノハ私立高等學校トス
- 第四條 高等學校ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第五條 高等學校ハ之ヲ文、理兩科ニ分ツコトヲ得
- 第六條 高等學校ノ修業年限ハ二年トス
- 第七條 高等學校ハ特別ノ必要アルトキハ讓科ヲ設立スルコトヲ得
- 第八條 高等學校ノ入學資格ハ其ノ讓科又ハ中學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且試驗ニ合格シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第九條 高等學校ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ綜理セシム
- 第十條 高等學校校長ハ教育部ニ於テ之ヲ聘任シ省立又ハ市立高等學校校長ハ省、市政府ニ於テ教育部ノ認可ヲ受ケ之ヲ任ズ
- 第十一條 高等學校ニ校務會議ヲ設ケ其ノ規則ハ學校ニ於テ之ヲ制定シ教育部ノ認可ヲ受ケベシ
- 第十二條 高等學校校長ハ校長ニ於テ之ヲ聘任シ職員及事務員ハ校長ニ於テ之ヲ任ズ
- 第十三條 高等學校教員ヲ專任及兼任ノ兩種ニ分ツ但シ兼任教員ノ總數ハ全體教員ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ
- 第十四條 高等學校ニ常駐シ以テ學生ノ實地及講教ニ任

スベシ

- 第十三條 高等學校學生ニシテ修業期間満了シ試驗ニ合格シタルトキハ學校ニ於テ卒業證書ヲ授與ス
- 第十四條 高等學校ノ規定ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

專門學校法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 專門學校ハ中華民國維新政府ノ教育宗旨及其ノ實施方針ヲ遵照シ高等學術及技藝ヲ教授シ專門人材ヲ養成スルヲ以テ宗旨トス
- 第二條 國立專門學校ハ教育部ニ於テ國內各地ノ事情ヲ審察シ之ヲ設立ス
- 第三條 專門學校ニシテ省政府又ハ市政府ニ於テ設立シタルモノハ省立又ハ市立專門學校トシ私人又ハ私法人ニ於テ設立シタルモノハ私立專門學校トス前項ノ專門學校ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第四條 專門學校ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ綜理セシム
- 第五條 國立專門學校校長ハ教育部ニ於テ之ヲ聘任シ省立又ハ市立專門學校校長ハ省又ハ市政府ニ於テ教育部ノ認可ヲ受ケ之ヲ聘任ス
- 第六條 專門學校ニ校務會議ヲ設ク其ノ規則ハ學校ニ於テ之ヲ制定シ教育部ノ認可ヲ受クベシ
- 第七條 專門學校職員及事務員ハ校長之ヲ任用ス
- 第八條 專門學校入學資格ハ省、市、縣立又ハ認可ヲ經タル私立中學ヲ卒業シ又ハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且入學試驗ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス
- 第九條 專門學校ノ修業年限ハ醫科ニ限り五年トシ他ハ四年トス
- 第十條 專門學校ハ必要アルトキハ豫科、專修科及研究科ヲ設ケ並ニ中學校ヲ附設スルコトヲ得但シ教育部ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス
- 第十一條 專門學校學生ニシテ修業期間滿了シ試驗ニ合格シタルトキハ校長ニ於テ卒業證書ヲ授與ス

- 第十二條 私立專門學校理事會ノ組織及職權ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十三條 專門學校ノ規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十四條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校法

民國二十七年十一月十六日

- 第一條 師範學校ハ中華民國維新政府教育總旨及實施方針ヲ遵照シ嚴格ナル身心訓練ヲ以テ健全ナル小學教員タルノ資格ヲ養成スベシ
- 第二條 師範學校ニ特別師範科ヲ附設スルコトヲ得
- 第三條 師範學校ノ修業年限ハ五年トシ特別師範科ノ修業年限ハ二年トス
- 第四條 師範學校ハ省又ハ中央機關直屬ノ市ニ於テ之ヲ設立ス
- 第五條 師範學校ニシテ省又ハ市ニ於テ設立シタルモノハ省立又ハ市立師範學校ト爲ス
- 第六條 師範學校ノ設立、變更、廢止又ハ休校ハ省又ハ市教育行政機關ニ於テ認可シタル後教育部ニ報告スベシ
- 第七條 師範學校及其ノ特別師範科ノ教授科目、

一九〇

- 課程ノ標準及實習規定ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第八條 師範學校及其ノ特別師範科ノ教科用圖書ハ教育部ノ編輯又ハ審定シタルモノヲ採用スベシ
- 第九條 師範學校ニ附屬小學校及幼稚園ヲ設置スベシ
- 第十條 師範學校ニ校長一人ヲ置キ校務ヲ處理セシメ省立師範學校ニ在リテハ教育廳ニ於テ有資格者ヲ推舉シ省政府ノ認可ヲ經テ之ヲ任用シ、中央機關直屬ノ市ノ市立師範學校ニ在リテハ市教育行政機關ニ於テ有資格者ヲ推舉シ市政府ニ申請シテ其ノ認可ヲ經テ之ヲ任用シ擔任スベキ本校ノ教課ノ外ハ他職ヲ兼任スルコトヲ得ズ
- 前項師範學校校長ノ任用ハ省又ハ市教育行政機關ニ於テ毎期之ヲ一括シ教育部ニ報告スベシ
- 第十一條 師範學校教員ハ校長ニ於テ之ヲ聘任シ專任ト爲スベシ 但シ特別ノ事由アルトキハ兼任教員ヲ招聘スルコトヲ得ルモ其ノ人數ハ教員總數ノ四分の一ヲ超ユルコトヲ得ズ師範學校職員ハ校長ニ於テ

- 之ヲ任用シ主管教育行政機關ニ報告スベシ
- 第十二條 師範學校校長、教員ノ任用規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十三條 師範學校入學資格ハ公立又ハ認可ヲ經タル私立高級小學校ヲ卒業シタル者特別師範科入學資格ハ公立又ハ認可ヲ經タル私立中學校ヲ卒業シタル者ニシテ入學試験ニ合格スルコトヲ要ス
- 第十四條 師範學校及其ノ特別師範科ノ學生ニシテ修業期間滿了シ實習ヲ終了シテ成績協同試験ニ合格シタルトキハ學校、省教育廳又ハ市教育局ニ於テ卒業證書ヲ授與ス
- 第十五條 師範學校及其ノ特別師範科ハ修學費ヲ徵收セズ
- 第十六條 師範學校規程及師範學校卒業生服務規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一九一

小 學 法

民國二十七年十二月二十一日

- 第一條 小學ハ中華民國維新政府教育宗旨及其ノ實施方針ニ遵照シテ兒童ノ身心ヲ發展セシメ國民道徳ノ基礎及生活上必要ナル基本智識及技能ヲ培養スヘシ
- 第二條 小學ノ修業年限ヲ六年トシ前四年ヲ初級小學後二年ヲ高級小學トス初級小學ハ地方情況ニ依リテ單獨ニ設立スルコトヲ得
- 第三條 小學ハ市、縣又ハ所屬地方ニ於テ之ヲ設立ス其ノ特殊ノ事情アルトキハ省又ハ中央機關直屬ノ市ニ於テ之ヲ設立スルコトヲ得
- 私人又ハ團體亦小學ヲ設立スルコトヲ得其ノ規程ハ教育部ニ於テ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 小學ニシテ市又ハ縣ニ於テ設立シタル小學ハ市立又ハ縣立小學ト爲シ所屬地方ニ於テ設立シタルモノハ當該地公立小學ト爲シ二地方以上ニ於テ聯合設立シタルモノハ當該地方聯合公立小學ト爲シ私人又ハ團體ニ於テ設立シタルモノハ私立小學ト爲ス
- 第五條 師範學校又ハ中學校附屬ノ小學ハ其師範學校附屬小學又ハ中學校附屬小學ト爲ス
- 第六條 小學ノ設置、變更及休校ハ省行政區域内ニ在ルモノハ省立小學ヲ除キ管轄市、縣教育行政機關ノ認可ヲ經テ教育廳ニ告スベシ中央機關直屬ノ市區域内ニ在ルモノハ本市教育行政機關ノ認可ヲ受クベシ
- 第七條 小學ノ學校ハ單式編制ヲ採用ス但シ特殊ノ事情アルトキハ複式編制ヲ用ウルコトヲ得初級小學ニ在リテハ二部制又ハ複式編制ヲ併用スルコトヲ得
- 第八條 小學ノ教授科目及課程標準ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム高級小學ハ地方情況ニ依リテ簡易ナル職業科目ヲ置クヘシ
- 第九條 小學教科書ハ教育部ノ編輯又ハ審定シタルモノヲ採用スベシ

- ルモノヲ採用スベシ
- 前項ノ編輯又ハ審定ニ際シテハ地方ノ郷土的教育ニ重キヲ置クベシ
- 第十條 小學ハ幼稚園ヲ附設スルコトヲ得
- 第十一條 小學ニ校長ヲ置キテ校務ヲ綜理セシム省立又ハ中央機關直屬ノ市立小學校長ハ教育廳又ハ市教育行政機關ニ於テ有資格者中ヨリ銜用ニ任ズ市、縣立又ハ所屬地方公立小學校長ハ市、縣教育行政機關ニ於テ有資格者ヨリ之ヲ銜用シ市、縣政府ニ申請シテ之ヲ任用シ併セテ教育廳ニ報告スルモトス報備案ス
- 第十二條 小學教員ハ校長ニ於テ有資格者ヨリ任用ス有資格者任用撤ニ滿タザルトキハ相當ノ資格ヲ有スル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得均シク主管教育行政機關ニ報告スルモトス
- 小學教員ノ檢定、任用、保障ノ各規程ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十三條 小學校長、教員ノ專任ト爲シ校長ハ本校ノ教課ヲ擔任スヘシ
- 第十四條 小學ハ單獨又ハ聯合シテ校醫又ハ看護人ヲ置クコトヲ得其ノ六學級以上ヲ有スルモノハ適宜ノ事務員ヲ置クコトヲ得
- 第十五條 初級又ハ高級小學學生ニシテ修業期間滿了シ成績合格點ニ滿ツトキハ學校ヨリ卒業證書ヲ授與ス
- 第十六條 小學ハ授業料ヲ徵收セズ但シ地方情況ニ依リ主管教育行政機關ニ申請シ其ノ認可ヲ經テ適宜之ヲ徵收ス
- 學生ニシテ授業料ヲ納入スルノ資方ナキトキハ小學校長ハ事情ヲ斟酌シテ其ノ授業料ノ一部又ハ全部ヲ免除スルコトヲ得
- 第十七條 小學規定ハ教育部ニ於テ之ヲ定ム
- 第十八條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

小學校暫行規程

民國二十七年十二月二十六日教育部令

- 第一章 總則
 - 第一條 本規程ハ暫行小學校第十七條ノ規定ニ據リ之ヲ定ム
 - 第二條 小學ハ國民義務教育ヲ施行スルノ場所ニシテ暫行小學校法第一條ヲ以テ其ノ實施方針トス
 - 第三條 小學兒童ノ在學年齡ハ滿六才以上滿十二才以下ニシテ修業年限ハ六年トス
 - 第四條 義務教育ヲ施行スルノ見地ヨリ各地ニ簡易小學及短期小學ヲ設クルコトヲ得、簡易小學及短期小學ニ付テハ教育部別ニ之ヲ定ム
 - 第五條 小學ノ學年、學期及休暇期間ハ教育部所定ノ學校學年學期及休暇日期規程ニ依ル
- 第二章 設置及管理
 - 第六條 市及縣ハ小學ノ設立ヲ普及シ其ノ管理ニ便スル爲若干ノ學區ニ分ツベシ

一九四

- 學區毎ニ教育委員若干人ヲ置キ小學教育ノ普及及發展ヲ計劃ス其ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第七條 師範學校及師範予訓練スル高等又ハ高等專門以上ノ學校ニ附設スル小學ハ師範學校生徒ノ實習ニ供スルノ外單設ノ小學ト同ジ
- 第八條 省、ハ市又ハ師範予訓練スル高等又ハ高等專門以上ノ學校ニシテ試驗的教育ノ爲設クル小學ハ某實驗小學ト稱ス
- 第九條 省立小學ハ所在地名ヲ以テ校名トシ市縣以下公立小學ハ區域比較的小ナル地名ヲ以テ校名ト爲スベシ一地名ニ公、市立等ノ區別アルモ校名相同ジキ小學アルトキハ數字ノ順序ヲ以テ之ヲ區別スベシ私立小學ハ專有ノ名稱ヲ採用シ地名ヲ以テ校名ト爲スコトヲ得ズ
- 第十條 小學ハ各級ノ教育行政機關之ヲ管轄ス其ノ範圍左ノ如シ
 - 一 省立小學、省立實驗小學及省立師範學校又ハ中學校ノ附屬小學ハ省教育廳之ヲ管轄ス

二 市立小學、市立實驗小學、市立師範學校又ハ中學校ノ附屬小學及市内ノ私立小學ハ市教育行政機關之ヲ管轄ス

三 縣及所屬各地ノ公立小學ハ縣教育行政機關之ヲ管轄ス

- 教育行政機關以外ノ機關ノ特設スル小學ハ所在地主管教育行政機關之ヲ指導監督ス
- 第十一條 小學ハ每學期開始後一月内ニ全組織概況、學校編制、教職員名簿及兒童名簿ヲ主管教育行政機關ニ呈報スベシ
- 第十二條 省立小學及國立高等學校又ハ高等專門以上ノ學校ノ附屬小學又ハ實驗小學ハ每學期開始後一月以内ニ當學期兒童名簿及前學期卒業兒童名簿ヲ所在地ノ市縣教育行政機關ニ呈報スベシ
- 第十三條 實驗小學ハ毎年實驗ノ計劃及結果ヲ主管教育行政機關ニ呈報シ教育部ニ轉呈スベシ
- 第十四條 私立小學ノ設置ハ暫行小學校法及本規程ヲ除ク外私立學校暫行規程ニ依ル

第三章 經費

- 第十四條 小學開始ニ要スル校舍建築費及設備費ノ配分ハ六對四又ハ七對三ノ比ト爲スベシ
- 第十五條 小學校經費ノ支出ノ配分ハ左ノ百分比ヲ以テ原則ト爲スベシ
 - 一 教職員俸金ハ百分ノ七十圖書、儀器、運動器具、教具等ノ設備費及衛生費ハ百分ノ十五實驗、文具、水物、電氣、薪炭等ノ消耗費ハ百分ノ九旅行保險等特別費ハ約百分ノ三、豫備費ハ百分ノ三
 - 二 前項豫備費ハ教育行政機關ノ許可ヲ經ルニ非ザレバ使用スルコトヲ得ズ
- 第十七條 小學經費ノ標準ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ニ申請シテ其ノ記錄ヲ經タル上之ヲ施行ス
- 第十八條 小學經費ノ支出ハ節約ヲ旨トス其ノ公開及審査ノ方法ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ニ申請シテ其ノ許可ヲ得タル上之ヲ施行ス

一九五

第四章 編制

第十九條 小學々級ハ児童入學ノ時其ノ年齢及智力ニ依リ之ヲ編制スベシ
第二十條 小學々級ノ編制ハ暫行小學校法第七條ノ規程ニ依ル其ノ人数ハ各學級各組四十人ヲ以テ標準トス
第二十一條 初級小學ノ二部編成ハ學校ノ情況ニ依リ半日制又ハ時間制ニ分ツコトヲ得
第五章 課程
第二十二條 小學教育科目及週教學時間ハ左ノ表ニ依ル
(表略 二十七年政府公報合訂本五一六頁參照)
說明
一 修身ハ特ニ之ヲ重シズ但シ授業ハ週二節トス
二 常識科ハ社會自然及衛生ヲ包括ス
三 高級社會科ハ歴史及地理ノ二科ニ分ツコトヲ得時間ノ配分ハ歴史四十分地理六十分トス
四 初級四年級ヨリ算術科ニ球算ヲ加フ
五 授業時間ハ地方ノ情況ニヨリ週一節ヲ分ツコトヲ得
六 授業時間ハ三十分又ハ六十分ヲ以テ一節トス其ノ三十分ナルトキハ實授二十五分其ノ六十分ナルトキハ實授四十五分トス
七 初級小學ハ原則トシテ外國語科(英語又ハ日語)ヲ設ケズ但シ必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第二十三條 小學課程ハ教育部ノ定ムル課程標準ニ依ルベシ
第二十四條 各地方ノ郷土教材ハ學校又ハ主管教育行政機關之ヲ編輯シ上級教育行政機關ノ認可ヲ受クベシ
第二十五條 小學教材要目ノ全國共通部分ニ屬スルモノハ教育部課程標準ノ規程ニ依リ別ニ之ヲ定ム地方特殊部分ニ屬スルモノハ省市主管教育行政機關之ヲ決定シ教育部ノ認可ヲ經タル上之ヲ施行ス
第二十六條 實驗小學ハ教育ニ便スルノ必要上各科ノ教材組織ハ聯合ノ各個單位トシ科目ヲ分タズ綜合シ

之ヲ教フ但シ別ニ要目ヲ作成シ主管教育行政機關ノ認可ヲ受クベシ
第六章 訓育
第二十七條 小學ノ訓育ハ児童ノ品性ヲ陶冶シ公民知識ヲ授クルヲ以テ主トス教員ハ児童ノ課内外各種ノ活動ヲ利用シ其ノ家庭及土地公共機關ト聯絡シテ積極的指導ヲ與フベシ
第二十八條 小學ハ児童ノ團體生活ヲ訓練スル爲種々ノ集團的活動ヲ爲スベシ此ノ目的ノ爲ニ児童ヲ指導シテ簡單ナル自治團體ヲ組織シムルコトヲ得
第二十九條 小學ハ個別教育ニ便スル見地ヨリ指導團ノ制度ヲ施行スルコトヲ得教員ハ直接児童訓育ノ責任ヲ負フ
第三十條 小學ハ教訓ノ效果ヲ増進スル爲児童ノ家長ト聯絡シ訓育等ノ實際問題ニ關シ協議スベシ
第三十一條 小學児童ハ體罰ニ處スルコトヲ得ズ
第七章 設備
第三十二條 小學校ハ児童ノ通學ニ便ニシテ環境良キ地點ヲ擇ブベシ
第三十三條 小學校舎ノ建築ハ質樸堅固ニシテ教育及衛生ニ適セシムベシ
第三十四條 小學ハ適當ナル面積ヲ有スル運動場作業場又ハ農場及校園ヲ有スベシ
第三十五條 小學児童ノ用フル机及椅子ハ児童ノ身長ニ適合セシムベシ
第三十六條 小學ハ學校衛生施設方案ヲ參照シ衛生及運動ノ設備ノ充實ヲ圖ルベシ
第三十七條 小學ハ圖書儀器教具等ノ設備ノ充實ヲ圖ルベシ
第三十八條 小學ハ教學訓育等各種ノ重要書籍及圖表ヲ備フベシ
第三十九條 小學ノ設備ノ標準ハ教育部ニ於テ別ニ之ヲ定ム
第八章 成績考查
第四十條 小學児童ノ學業成績考查ハ平時考查ヲ除キ別ニ臨時試驗學期試驗及卒業試驗ヲ舉行ス

第四十一條 臨時試験ハ教員毎月月末之ヲ舉行シ毎學期少クトモ三回以上之ヲ舉行スベシ
第四十二條 學期試験ハ教學期末ニ之ヲ舉行ス
第四十三條 卒業試験ハ小學校長各科ノ教員ト聯絡シ上條業期満了ノ時之ヲ行フ
第四十四條 小學兒童ノ學業成績計算方法、體育考查方法及兒童ノ昇級留級ノ辦法ハ省市教育行政機關之ヲ決定シ教育部ノ認可ヲ經テ登錄ス
第四十五條 小學兒童ノ進修及成績ハ其ノ品性及平時ノ言行ヲ以テ標準ト爲スベシ
第九章 入學及卒業
第四十六條 小學兒童入學年齡ハ滿六才トス 但シ特別ノ事情アル者ハ滿九才迄延期スルコトヲ得
第四十七條 小學ノ各學級ニ缺員アラバ毎期開始後一月内ニ補缺編入生ヲ收容スルコトヲ得
第四十八條 小學兒童ハ身體又ハ家庭ノ事情ニ因リ休學ヲ請求スルコトヲ得
第四十九條 小學兒童ハ身體又ハ家庭ノ事情ニ因リ休校ノ調査ヲ經テ轉學又ハ退學スルコトヲ得
第五十條 小學兒童ノ休業期間満了シ試験ニ及第セザルトキハ暫行小學法第十五條ノ規定ニ依リ學校卒業證書ヲ授與ス
第十章 授業料及其ノ他ノ費用
第五十一條 小學ハ授業料ヲ徵收セズ 但シ必要ト認ムルトキハ暫行小學法第十六條ノ規定ニ依リ主管教育行政機關ノ審査ヲ經テ之ヲ徵收スルコトヲ得此場合ニ於テモ貧窮兒童ニ對シテハ之ヲ免ズベシ
第五十二條 小學ハ授業料ヲ納メルト否トテ以テ學級編成ノ標準ト爲スコトヲ得ズ
第五十三條 小學必需ノ學用品等ハ學校ニ於テ之ヲ支給シ又ハ學校若ハ地方教育行政機關ニ於テ消費組合ヲ組織シ極メテ低廉ノ價格ヲ以テ之ヲ兒童ニ發賣スルコトヲ得
第五十四條 其ノ他小學ハ兒童ニ對シ費用ヲ徵收スルコトヲ得ズ
第十一章 教職員

第五十五條 小學ハ校長一人ヲ置ク學級ニハ級主任教員一人ヲ置ク 仍別ニ專科教員ヲ置クコトヲ得ルモ學級ノ平均教員數ハ三人ヲ越スルコトヲ得ズ
第五十六條 小學ハ單獨又ハ聯合シテ校醫又ハ看護人ヲ置クベシ其ノ六學級以上ヲ有スルモノハ事務員ヲ置クコトヲ得 但シ主管教育行政機關ノ許可ヲ仰グベシ
第五十七條 小學教職員ハ學校又ハ學校所在ノ區域内ニ居住スベシ
第五十八條 小學校長ハ全校事務ヲ綜理シ教學ヲ擔任スル外教職員ヲ指導シ校務及教訓事項ヲ分掌ス
第五十九條 小學教員ハ審査又ハ検査ニ合格シ教育部ノ發行セル證書ヲ有スル者ヲ以テ之ニ任ズベシ 小學教員資格ノ審査及小學校長檢定ノ規定ハ別ニ之ヲ定ム
第六十條 審査又ハ檢定ニ合格セル教員ノ服務年限ハ二年以上ニシテ成績優秀ナル者ハ小學校長トナスコトヲ得
第六十一條 小學教員ハ校長ニ於テ暫行小學法第十二條ノ規定ニ依リ學年開始一月前ニ聘任ス其ノ期間ハ初聘ノ者ニ在リテハ一學年ヲ以テ原則トス以後續ケテ聘任スル時ハ二學年トス聘任セシ後ハ主管教育行政機關ニ報告シ記録ニ止ム不合格ナル者アラバ主管教育行政機關ハ更聘セシムルコトヲ得
第六十二條 小學ハ地方ノ特殊事情ニ因リ審査又ハ檢定ニ合格セル教員ヲ聘任スルコト能ハザル時ハ小學校教員資格規定及小學校長檢定規程ノ規定スル資格中其ノ一ニ該當スル者ヲ以テ代用教員ト爲スコトヲ得但シ主管教育行政機關ノ許可ヲ仰グベシ
審査又ハ檢定ニ合格セル教員ノ服務期間二年ニ滿タザルトキト雖モ合格校長不足ノ場合ハ代理校長ニ任ズルコトヲ得
第六十三條 審査又ハ檢定ニ合格セル小學教員ハ主管教育行政機關ニ於テ毎學年開始前二月ニ其ノ姓名學歷及經歷ヲ一度公告スベシ但シ人數過多ナル時ハ期ヲ分ケテ公告スルコトヲ得